

令和5年度  
シラバス  
第51期生



長崎市医師会看護専門学校 第2看護学科

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_

# 目 次

シラバスの活用について	1
教育理念 教育目的 目標	2
教育課程	3
カリキュラム構造について	4
教育課程進度表	6
各分野の考え方	7
主要概念の定義	13

## 1 年次履修科目

### 基礎分野

論理学Ⅰ（文章表現）	15
論理学Ⅱ（論理的思考）	16
心理学	17
社会学	18
教育学	19
英語	20

### 専門基礎分野

栄養と代謝（生化学/栄養学）	21
微生物学	22
人体の構造と機能（解剖生理学/病態生理学）	23
病理学	24
疾病論Ⅰ（呼吸器/循環器）	25
疾病論Ⅱ（運動器/脳神経）	26
疾病論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科）	27
疾病論Ⅳ（血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科）	28

## 専門分野

看護学概論	29
技術論Ⅰ（臨床判断の基礎）	30
技術論Ⅲ（日常生活援助技術）	31
地域・在宅看護総論（看護の対象である人とくらしを理解する）	32
成人看護学概論	33
成人看護学方法論Ⅰ（呼吸器/循環器/腎・泌尿器）	34
成人看護学方法論Ⅱ（運動器/脳神経/血液・造血器）	35
成人看護学方法論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア）	36
老年看護学概論	37
母性看護学方法論Ⅰ（障害と治療/周産期・新生児）	38
精神看護学概論	39
精神看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	40

## 2年次履修科目

### 基礎分野

情報科学	41
保健体育	42

### 専門基礎分野

臨床薬理学（薬理学/薬物療法看護）	43
公衆衛生学	44
社会福祉	45
生命倫理	46

### 専門分野

技術論Ⅱ（看護過程）	47
技術論Ⅳ（臨床看護総論/学習支援）	48
技術論Ⅴ（診療の補助技術）	49

地域・在宅看護方法論Ⅰ（地域ケアマネジメントと多職種連携）	50
地域・在宅看護方法論Ⅱ（家族看護と在宅看護過程）	51
地域・在宅看護方法論Ⅲ（対象のくらしに応じた支援の実際）	52
地域・在宅看護方法論Ⅳ（健康とくらしを支える技術の基本）	53
老年看護学方法論Ⅰ（高齢者看護の基本・実践Ⅰ）	54
老年看護学方法論Ⅱ（高齢者看護の基本・実践Ⅱ）	55
小児看護学概論	56
小児看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	57
小児看護学方法論Ⅱ	58
母性看護学概論	59
母性看護学方法論Ⅱ（周産期・新生児の看護）	60
精神看護学方法論Ⅱ	61
災害看護と国際看護	62

### 3年次履修科目

#### 専門基礎分野

関係法規	63
------	----

#### 専門分野

看護管理と医療安全	64
看護研究	65
臨床判断能力	66

### 講師一覧表

資料1（1年次）	67
資料2（2年次）	68
資料3（3年次）	69

## シラバスの活用について

シラバスとは、学習の目標や内容、使用テキスト、評価方法などを明示し、授業の計画を示す文書のことをいいます。これを冊子にして皆さんに事前に配布する目的は、以下の3点にあります。

1つ目は、学生の皆さんにカリキュラムの全体像をつかんでもらうことです。これからの1年間あるいは3年間にどのような科目がどのような進度で計画され、どのような授業が行われようとしているのか、その全体的な流れや内容を見てほしいと思います。そして、看護専門職を目指す学生として長期的な学習目標・学習計画を立て、自律した学習行動を確立して行って下さい。

2つ目は、各科目の授業開始にあたり、学習目標、学習内容、使用テキストなどを事前に把握し、授業への興味・関心を高め、予習に活用してほしいと思います。皆さんは准看護科で看護の概要を学んできていますが、さらに専門職としての知識、技術の拡大を図る必要があります。シラバス配布の最大のねらいは、学生の皆さんが主体的に授業に参加することにあります。事前にテキストを読み自ら考える姿勢や、講師に質問する学習態度があれば、同じ時間の学習を何倍もの成果に変えていくことができるでしょう。そのような学習にこのシラバスが活用されることを期待します。

3つ目は、本校を卒業後にもシラバスが必要になることがあるということです。皆さんの中には、本校卒業後、大学へ編入・進学しようと考えている人がいると思います。大学に編入・進学する際には、既習単位認定の申請という手続きがあり、シラバスの提出を求められる場合があります。卒業後も必要な場合があることを認識し保管しておいて下さい。

年度が替わっても科目設定の考え方、範囲、主要内容などについて変わることはありませんが、担当講師や使用テキストの変更、あるいは担当講師の授業過程において授業の進め方や内容が変更される場合があります。変更がある場合は、各講義の開始時に担当講師より資料などにて修正、説明がありますので、その内容に差し替えて保管・活用して下さい。また科目によっては、実際の授業内容に合わせて詳細な資料が配付されることもありますので、最大限に活用して下さい。

このシラバスが学生の皆さんの積極的な授業参加に役立つことを期待します。

令和5年4月

## [教 育 理 念]

看護専門職としての志を高く持ち、自ら学び、考え、行動する看護実践者の育成

## [教 育 目 的]

人びとのいのち・くらし・尊厳を支える看護実践者を育成する。

## [教 育 目 標]

1. 看護の対象である人びとを生活者としてとらえる力を涵養する。
2. 対象を中心とした看護を提供するためのコミュニケーション能力を涵養する。
3. 看護の対象をかけがえのない存在として尊重し、倫理観に基づいた看護を実践できる能力を涵養する。
4. 臨床判断に基づいた看護を実践する基礎的能力を身につける。
5. 地域包括ケアシステムにおいて、看護の専門性を発揮し、多職種と連携・協働する基礎的能力を身につける。
6. 社会と人びとのニーズの多様性や変化に関心を向けることができる。

# 教 育 課 程

(第2看護学科)

区分・内容	授 業 科 目	単位(時間数)	区分・内容	授 業 科 目	単位(時間数)		
基礎分野	科学的思考の 基盤	論理学Ⅰ (文章表現)	1(15)	成人看護学	成人看護学概論	1(30)	
		論理学Ⅱ (論理的思考)	1(15)		成人看護学方法論Ⅰ (呼吸器/循環器/腎・泌尿器)	1(30)	
		情報科学	1(30)		成人看護学方法論Ⅱ (運動器/脳神経/血液・造血器)	1(30)	
		小 計	3(60)		成人看護学方法論Ⅲ (消化器/ 内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア)	1(30)	
	人間と生活・社会の理解	心理学	1(30)	老年看護学	小 計	4(120)	
		社会学	1(30)		老年看護学概論	1(30)	
		教育学	1(15)		老年看護学方法論Ⅰ (高齢者看護の基本・実践Ⅰ)	1(30)	
		保健体育	1(30)		老年看護学方法論Ⅱ (高齢者看護の基本・実践Ⅱ)	1(30)	
		英語	1(30)	小 計	3(90)		
		小 計	5(135)	小児看護学	小児看護学概論	1(30)	
合 計	8(195)	小児看護学方法論Ⅰ (障害と治療)	1(15)				
		小児看護学方法論Ⅱ	1(30)				
専門基礎分野	人体の構造と機能	栄養と代謝 (生化学/栄養学)	1(30)	母性看護学	母性看護学概論	1(30)	
		臨床薬理学 (薬理学/薬物療法看護)	1(30)		母性看護学方法論Ⅰ (障害と治療/周産期・新生児)	1(15)	
		微生物学	1(15)		母性看護学方法論Ⅱ (周産期・新生児の看護)	1(30)	
		人体の構造と機能 (解剖生理学/病態生理学)	2(45)		小 計	3(75)	
		病理学	1(15)		精神看護学	精神看護学概論	1(30)
		小 計	6(135)			精神看護学方法論Ⅰ (障害と治療)	1(15)
	疾病の成り立ちと 回復の促進	疾病論Ⅰ (呼吸器/循環器)	1(30)	精神看護学方法論Ⅱ		1(30)	
		疾病論Ⅱ (運動器/脳神経)	1(30)	小 計		3(75)	
		疾病論Ⅲ (消化器/内分泌・代謝/ 眼科/耳鼻科)	1(30)	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	1(30)	
		疾病論Ⅳ (血液・造血器/免疫/腎・ 泌尿器/口腔/皮膚科)	1(30)		看護研究	1(30)	
	小 計	4(120)	災害看護と国際看護		1(15)		
	健康支援と 社会保障制度	関係法規	1(15)		臨床判断能力	1(30)	
		公衆衛生学	1(15)		小 計	4(105)	
		社会福祉	1(30)	臨地実習	基礎看護学実習	2(90)	
生命倫理		1(30)	地域・在宅看護論実習		2(90)		
小 計	4(90)	成人・老年看護学実習Ⅰ (治療を受ける対象の看護・予防的視点 を持つ看護)	2(90)				
合 計	14(345)	成人・老年看護学実習Ⅱ (多様な 健康段階・生活の場における看護)	2(90)				
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1(30)		小児看護学実習	2(90)	
		技術論Ⅰ (臨床判断の基礎)	1(30)		母性看護学実習	2(90)	
		技術論Ⅱ (看護過程)	1(30)		精神看護学実習	2(90)	
		技術論Ⅲ (日常生活援助技術)	1(30)		統合実習	2(90)	
		技術論Ⅳ (臨床看護総論/学習支援)	1(30)	小 計	16(720)		
		技術論Ⅴ (診療の補助技術)	1(30)	合 計	47(1560)		
		小 計	6(180)	講義合計	53(1380)		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護総論 (看護の対象 である人と暮らしを理解する)	1(30)	実習合計	16(720)		
		地域・在宅看護方法論Ⅰ (地域ケアメントと多職種連携)	1(15)	総合合計	69(2100)		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ (家族看護と在宅看護過程)	1(15)				
地域・在宅看護方法論Ⅲ (対象の暮らしに応じた支援の実際)		1(30)					
地域・在宅看護方法論Ⅳ (健康と暮らしを支える技術の基本)		1(30)					
小 計	5(120)						

## カリキュラム構造について

### 1) カリキュラム構造図の考え方

第2看護学科では「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の3つの科目群に編成し、それぞれを3年間で段階的に身に付けるように学修するカリキュラムを編成した。

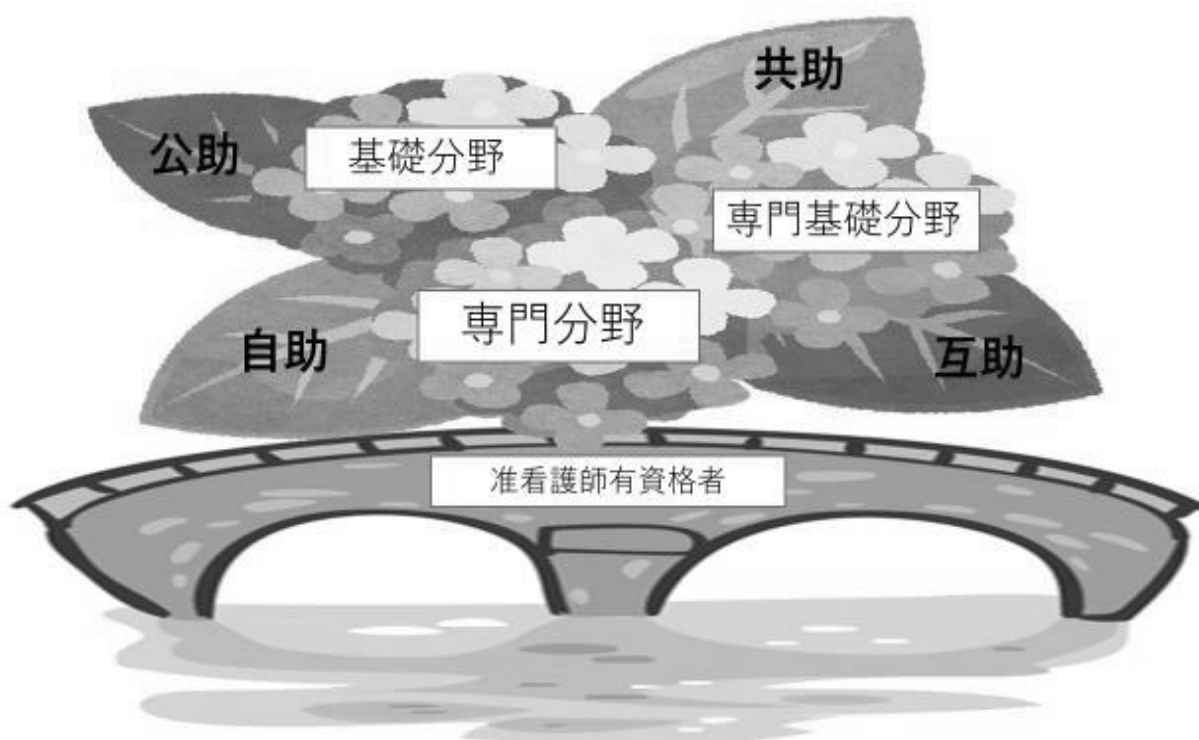
アジサイは長崎市を象徴する花である。アジサイは一度植え付ければ、長い間花を楽しめる寿命の長い植物で年々花数が増えて見事な株になる。看護実践者として主体的に学び看護者としても専門性を深めていくことをアジサイの花の特徴に例えた。

構造図は眼鏡橋にアジサイが咲いていることを示した。眼鏡橋もまた長崎市の象徴である。長崎は医学発祥の地であることから看護師を目指して学びを発展して欲しいことを構造図にした。

長崎市の象徴であるアジサイと眼鏡橋、そして地域包括ケアシステムの4つの「助」を葉っぱにした。これは、地域に貢献し、地域で暮らす人々の暮らしやすさにつながる実践者になることをめざしていることを示した。

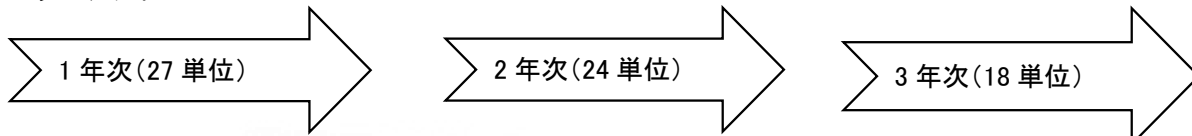
本学科は准看護師の資格をもつ学生が看護師を目指す課程である。眼鏡橋を准看護師の土台とし、橋の上のアジサイは、看護実践者に必要となる3つの分野を学ぶことで知識や技術、態度を統合することを示した。

### 2) カリキュラム構造図





3) カリキュラムデザイン



<p>専 門 分 野</p>	<p><b>【基礎看護学】</b> 看護学概論 技術論Ⅰ(臨床判断の基礎) 技術論Ⅲ(日常生活援助技術) <b>【地域・在宅看護論】</b> 地域・在宅看護総論 (看護の対象である人と暮らしを理解する) <b>【成人看護学】</b> 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ (呼吸器/循環器/腎・泌尿器) 成人看護学方法論Ⅱ (運動器/脳神経/血液・造血器) 成人看護学方法論Ⅲ (消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア) <b>【老年看護学】</b> 老年看護学概論 <b>【母性看護学】</b> 母性看護学方法論Ⅰ (障害と治療/周産期・新生児) <b>【精神看護学】</b> 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ(障害と治療)</p>	<p><b>【基礎看護学】</b> 技術論Ⅱ(看護過程) 技術論Ⅳ(臨床看護総論/学習支援) 技術論Ⅴ(診療の補助技術) <b>【地域・在宅看護論】</b> 地域・在宅看護方法論Ⅰ (地域ケアマネジメントと多職種連携) 地域・在宅看護方法論Ⅱ (家族看護と在宅看護過程) 地域・在宅看護方法論Ⅲ (対象の暮らしに応じた支援の実際) 地域・在宅看護方法論Ⅳ (健康と暮らしを支える技術の基本) <b>【老年看護学】</b> 老年看護学方法論Ⅰ (高齢者看護の基本・実践Ⅰ) 老年看護学方法論Ⅱ (高齢者看護の基本・実践Ⅱ) <b>【小児看護学】</b> 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ(障害と治療) 小児看護学方法論Ⅱ <b>【母性看護学】</b> 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅱ (周産期・新生児の看護) <b>【精神看護学】</b> 精神看護学方法論Ⅱ <b>【看護の統合と実践】</b> 災害看護と国際看護 <b>【臨地実習】</b> 基礎看護学実習</p>	<p><b>【看護の統合と実践】</b> 看護管理と医療安全 看護研究 臨床判断能力 <b>【臨地実習】</b> 地域・在宅看護論実習 成人・老年看護学実習Ⅰ (治療を受ける対象の看護・予防的視点を持つ看護) 成人・老年看護学実習Ⅱ (多様な健康段階・生活の場における看護) 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 統合実習</p>
<p>専 門 基 礎 分 野</p>	<p><b>【人体の構造と機能】</b> 栄養と代謝(生化学/栄養学) 微生物学 人体の構造と機能 (解剖生理学/病態生理学) 病理学 <b>【疾病の成り立ちと回復の促進】</b> 疾病論Ⅰ(呼吸器/循環器) 疾病論Ⅱ(運動器/脳神経) 疾病論Ⅲ(消化器/内分泌・代謝/ 眼科/耳鼻科) 疾病論Ⅳ(血液・造血器/免疫/ 腎・泌尿器/口腔/皮膚科)</p>	<p><b>【人体の構造と機能】</b> 臨床薬理学(薬理学/薬物療法看護) <b>【健康支援と社会保障制度】</b> 公衆衛生学 社会福祉 生命倫理</p>	<p><b>【健康支援と社会保障制度】</b> 関係法規</p>
<p>基 礎 分 野</p>	<p><b>【科学的思考の基盤】</b> 論理学Ⅰ(文章表現) 論理学Ⅱ(論理的思考) <b>【人間と生活・社会の理解】</b> 心理学 社会学 教育学 英語</p>	<p><b>【科学的思考の基盤】</b> 情報科学 <b>【人間と生活・社会の理解】</b> 保健体育</p>	

## 教育課程進度表

教育内容	授業科目	単位	時間	1年次		2年次		3年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学Ⅰ(文章表現)	1	15					
		論理学Ⅱ(論理的思考)	1	15					
		情報科学	1	30					
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30					
		社会学	1	30					
		教育学	1	15					
		保健体育	1	30					
	英語	1	30						
	合計	8	195	6	(135)	2	(60)		
専門基礎分野	人体の構造と機能	栄養と代謝(生化学/栄養学)	1	30					
		臨床薬理学(薬理学/薬物療法看護)	1	30					
		微生物学	1	15					
		人体の構造と機能(解剖生理学/病態生理学)	2	45					
		病理学	1	15					
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ(呼吸器/循環器)	1	30					
		疾病論Ⅱ(運動器/脳神経)	1	30					
		疾病論Ⅲ(消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科)	1	30					
		疾病論Ⅳ(血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科)	1	30					
	健康支援と社会保障制度	関係法規	1	15					
		公衆衛生学	1	15					
		社会福祉	1	30					
		生命倫理	1	30					
		合計	14	345	9	(225)	4	(105)	1
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30					
		技術論Ⅰ(臨床判断の基礎)	1	30					
		技術論Ⅱ(看護過程)	1	30					
		技術論Ⅲ(日常生活援助技術)	1	30					
		技術論Ⅳ(臨床看護総論/学習支援)	1	30					
		技術論Ⅴ(診療の補助技術)	1	30					
		小計	6	180	3	(90)	3	(90)	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護総論(看護の対象である人とくらしを理解する)	1	30					
		地域・在宅看護方法論Ⅰ(地域ケアマネジメントと多職種連携)	1	15					
		地域・在宅看護方法論Ⅱ(家族看護と在宅看護過程)	1	15					
		地域・在宅看護方法論Ⅲ(対象のくらしに応じた支援の実際)	1	30					
		地域・在宅看護方法論Ⅳ(健康とくらしを支える技術の基本)	1	30					
		小計	5	120	1	(30)	4	(90)	
	成人看護学	成人看護学概論	1	30					
		成人看護学方法論Ⅰ(呼吸器/循環器/腎・泌尿器)	1	30					
		成人看護学方法論Ⅱ(運動器/脳神経/血液・造血器)	1	30					
		成人看護学方法論Ⅲ(消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア)	1	30					
		小計	4	120	4	(120)			
	老年看護学	老年看護学概論	1	30					
		老年看護学方法論Ⅰ(高齢者看護の基本・実践Ⅰ)	1	30					
		老年看護学方法論Ⅱ(高齢者看護の基本・実践Ⅱ)	1	30					
		小計	3	90	1	(30)	2	(60)	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30					
		小児看護学方法論Ⅰ(障害と治療)	1	15					
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30					
		小計	3	75			3	(75)	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30					
		母性看護学方法論Ⅰ(障害と治療/周産期・新生児)	1	15					
		母性看護学方法論Ⅱ(周産期・新生児の看護)	1	30					
		小計	3	75	1	(15)	2	(60)	
精神看護学	精神看護学概論	1	30						
	精神看護学方法論Ⅰ(障害と治療)	1	15						
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30						
	小計	3	75	2	(45)	1	(30)		
看護の統合と実践	看護管理と医療安全	1	30						
	看護研究	1	30						
	災害看護と国際看護	1	15						
	臨床判断能力	1	30						
	小計	4	105			1	(15)	3	(90)
臨地実習	基礎看護学実習	2	90						
	地域・在宅看護論実習	2	90						
	成人・老年看護学実習Ⅰ(治療を受ける対象の看護・予防的視点を持つ看護)	2	90						
	成人・老年看護学実習Ⅱ(多様な健康段階・生活の場における看護)	2	90						
	小児看護学実習	2	90						
	母性看護学実習	2	90						
	精神看護学実習	2	90						
	統合実習	2	90						
	小計	16	720			2	(90)	14	(630)
	合計	47	1560	12	(330)	18	(510)	17	(720)
	講義合計	53	1380	27	(690)	22	(585)	4	(105)
	実習合計	16	720			2	(90)	14	(630)
	総計	69	2100	27	(690)	24	(675)	18	(735)

## 各分野の考え方

### 【基礎分野】

基礎分野は、専門基礎分野および専門分野の基礎となる科目であり、看護実践に必要とされる論理的思考や対人関係、人間の生活について学ぶ。

看護を実践するということは専門的な知識や技術を思考し、他者に伝える情報伝達能力が必要となる。基礎科目では思考したものをコミュニケーションや文章として伝えるための科目を構成する。

そして、看護師は、健康障害のある人のみならず、対象の家族や健康な人も看護の対象として関わることが求められる。その際、相手の気持ちを知り、その気持ちに寄り添う看護師の感性が大切になる。看護者は成人学習者として、生涯学習を通し豊かな教養を身につけ、国際化・情報化社会に対応できる能力を身につける内容とした。

教育内容	科目	科目設定理由
科学的思考の基盤	論理学Ⅰ（文章表現） 論理学Ⅱ（論理的思考）	文章を構成する能力、思考を文章化できる能力を身につける。 論理的な思考過程を学ぶことで、起こっている現象を正しく解釈し、自分の考えを表現できる。
	情報科学	情報科学の急速な進歩に対応できるように、情報処理の基本的な考え方、統計データの整理の仕方・結果の読みとり方を実際にパソコンを使って理解する。また、他人に伝える技術を身につける。 情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を学ぶ。
人間と生活・社会の理解	心理学	看護の対象である人間の心と行動について学び、人間を理解するきっかけとする。 対象・家族、多職種とのよりよい関係を築くには、コミュニケーション能力を強化していくことが必要となってくる。人間関係の基本的ルールやカウンセリング技術の方法を学ぶ。
	社会学	人間の生活は、複雑な社会組織の中で営まれている。人間を取り巻く社会のしくみを理解し、人間関係や社会現象を様々な角度からみることで、人間を多角的にとらえられるようにする。また、社会現象が人間の生活に与える影響について学び、幅広いものの見方を養う。
	教育学	人間形成における教育の役割を理解するとともに看護実践者として生涯学習の必要性を理解する。
	保健体育	運動やスポーツの正しい知識や、リラクゼーション・レクリエーションの実技を通して学生自身が身体運動の楽しさに触れ、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。さらに看護をより充実させるための基礎的資質として健康・疾病と運動の関係について理解し、個人・集団の健康づくりへのサポートができることを目的とする。
	英語	医療の現場に必要な英会話表現、医療専門用語の修得を目指す。さらに日常生活での基礎的な英会話能力を高めることで、異文化間コミュニケーション能力と国際化社会に対する広い視野を獲得することを目的とする。

【専門基礎分野】

看護学の観点から人体の構造と機能を系統立てて理解し、人間の健康状態と疾病の成り立ち、回復の促進に関する観察力・判断力を養い、科学的根拠に基づいた看護実践の基盤として学ぶ内容とする。そして看護師に必要な臨床判断能力の基盤となる力を養う内容を強化する。

保健・医療・福祉についての基本概念、関係制度、関係する職種の役割について学び、健康や障害の状態に応じた社会資源の活用ができる基礎的知識を身につける内容とする。

医療従事者にとって不可欠な医療倫理観を涵養し、看護に関連する倫理的課題への洞察を深める内容とする。

教育内容	科目		科目設定理由
人体の構造と機能	栄養と代謝 (生化学/栄養学)		栄養の意義、生命を維持する働き、生命を活用する働きを学ぶ。看護では食事や栄養に関して支援する機会が多いため、対象者の健康維持・健康管理支援に必要な栄養管理を学ぶ。
	臨床薬理学 (薬理学/薬物療法看護)		安全な看護を提供するため薬物の特質、人体への影響、薬物の管理について学ぶ。対象者の健康管理を促進する看護を考える。
	微生物学		微生物の特徴と人体に及ぼす影響を学びその対応について学ぶ。
	人体の構造と機能 (解剖生理学/病態生理学)		人体で営まれているさまざまな、生命を維持する働き、生命を活用する働き、生命を保護し種を保存する働きを学ぶ。 健康障害のある対象を理解する為に、病気の原因・病情的変化の特徴から正常な形態・機能・代謝の変化を学ぶ。
	病理学		病気の原因、患者の徴候や症状をもたらす発生機序を学ぶ。
疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論	I 呼吸器/循環器	解剖生理学、病態生理学、病理学を基盤に系統別疾患の診断、検査、治療について理解を深める。看護における臨床判断の基盤となる科学的根拠を学ぶ。
		II 運動器/脳神経	
		III 消化器/内分泌・代謝/ 眼科/耳鼻科	
		IV 血液・造血器/免疫/ 腎・泌尿器/ 口腔/皮膚科	
健康支援と社会保障制度	関係法規		法の基礎知識ならびに保健医療・福祉・薬事など看護に関連する諸法規を学び、看護業務に携わる者の業務と責任を自覚する必要性を理解する。 生活者が健康を維持する為の保健福祉医療制度について理解を深める。
	公衆衛生学		健康と生活環境を関連づけて理解し、健康の維持・増進・疾病の予防のため地域保健活動について学ぶ。
	社会福祉		国民の生活を保障するための社会福祉政策について理解し社会資源活用のための基礎とする。 社会福祉と医療・社会保障の関連について理解し、対象に必要な社会資源活用のための基礎とする。
	生命倫理		変動する社会情勢に伴い、複雑化多様化する倫理的課題を学び、看護場面における倫理的判断の基盤とする。

## 【専門分野】

基礎看護学は、看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法を学習し、看護師としての臨床判断能力を養う内容とする。

地域・在宅看護論では、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、様々な生活の場における看護の基礎を学ぶ内容とする。地域における多職種協働や終末期看護の内容を含むものとする。

成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の各看護学では、看護の対象の理解、疾病の予防、健康の回復・保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学び、看護実践能力の向上を図る内容とする。

看護の統合と実践は、看護基礎教育の集大成に位置し、対象に応じて既習の知識・技術・態度を統合し実践する内容とする。国際社会・災害場面など、多様かつ拡大する社会のニーズや看護の場において、多職種と連携・協働し、基礎的臨床判断能力を養う内容とする。

臨地実習では、学内で学習した知識・技術・態度を看護実践の場面に活用させることで看護理論と実践を関連づけ、臨床実践能力の向上を図ることが重要である。保健医療福祉との連携・協働を通して看護実践できる基礎的能力を養う内容とする。

教育内容	科目	科目設定理由
基礎看護学	看護学概論	学問としての看護学への導入部であり看護を体系的に理解する基盤となる。看護の概念、看護の対象となる人間（個人・家族・集団・地域）の理解、看護学発展の歴史的変遷、看護の役割と機能、看護倫理や法律など、看護学の基本的基盤を学ぶ中で看護に対する考え方を育む。また、看護実践を裏付ける看護理論の概要と実践にいかす意義を学ぶ。
	技術論Ⅰ （臨床判断の基礎）	臨床実践の場で状況の変化に応じた看護実践を遂行するための臨床判断の基礎的知識を学ぶ。既習学習をもとに臨床判断の気づく力を養う。既習知識（解剖生理学、病理学、病態生理学、基礎看護技術など）を活用し、観察とコミュニケーションを用いて、情報から患者の変化に気づくことができる基礎的能力を身につける。これらの過程を通して、看護は思い付きではなく、知識が必要であり、全ての科目が看護につながるという認識を持つことを目指す。また、臨床において対象となる人の状態を総合的に査定するヘルスアセスメントについて理解する。
	技術論Ⅱ （看護過程）	看護の対象はさまざまであり、その人らしく生活できるよう支援していく。看護を系統的かつ科学的なプロセスにもとづき実践するための方法論の1つとして看護過程を学ぶ内容を技術論Ⅱとした。看護は対象となる人のニーズに応じたものであるため、対象者にとって必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論を学習する。各看護学の学びを活用し展開していく。
	技術論Ⅲ （日常生活援助技術）	看護技術の教授は原理・原則を踏まえ、科学的根拠を明確にし、如何に工夫・応用して対象の個別性を考慮した援助を実施できるようにするかが重要となる。そこで、看護技術の中で対象に応じた基本的なニーズを充足するための日常生活援助技術を修得する。
	技術論Ⅳ （臨床看護総論/学習支援）	臨床看護総論と学習支援を合わせた科目を技術論Ⅳとした。健康障害をもつ対象の症状、経過、治療・処置の具体的内容と看護の役割および必要な技術を修得する。また、看護における学習支援について学ぶ。
	技術論Ⅴ （診療の補助技術）	健康障害をもつ対象に必要な治療・検査・処置の具体的内容と看護の役割および必要な技術を修得する。

地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論 (看護の対象である人と暮らしを理解する)	地域・在宅における看護を学ぶにあたり、地域医療や看護が必要とされる背景と在宅看護の概念を学習する。さらに看護の対象を生活者として捉えて支援するために、家族を含む看護の対象のくらしや特徴を学習する。また訪問看護を中心に、地域で活動する看護職の役割について理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅰ (地域ケアマネジメントと多職種連携)	地域で生活・療養する人とその家族を支える保健医療福祉制度と、地域包括ケアシステムにおける看護職及び多職種の役割を学習する。また地域・在宅看護におけるケアマネジメントの重要性を理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅱ (家族看護と在宅看護過程)	地域でくらしながら療養する人の支援において、同居や別居を問わず家族の存在は重要である。現在の家族の特徴を理解し、介護によりもたらされるものを理解することは、医療や看護を必要とする人のくらしを支えるために重要である。また ICF モデルでみた看護のプロセスを理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅲ (対象のくらしに応じた支援の実際)	地域・在宅看護は、全年齢層及び様々な疾患や健康の段階にある人と家族を対象としている。さまざまな療養者のくらしに合わせた支援・医療的ケアの特徴と実際を理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅳ (健康とくらしを支える技術の基本)	地域・在宅看護における看護技術の特徴と、看護の対象のくらしを支えるために必要な基本的な生活支援技術を理解する。
成人看護学	成人看護学概論	成人各期の身体的・心理的・社会的特徴ならびに成人の生活や取り巻く環境を理解する。成人各期における健康の保持・増進や疾病の予防に向けた看護を理解する。
	成人看護学方法論Ⅰ (呼吸器/循環器/腎・泌尿器)	健康障害のある成人各期の人々の特徴を理解し、看護を展開するための基本的知識を得る。 終末期を含めたあらゆる健康段階にある患者およびその家族への看護に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
	成人看護学方法論Ⅱ (運動器/脳神経/血液・造血器)	
	成人看護学方法論Ⅲ (消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア)	
老年看護学	老年看護学概論	老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を学び、看護の対象を理解する。また、高齢者を取り巻く生活や社会資源、地域包括ケアに関する看護を学ぶ。 高齢者の人権や倫理について学び、QOL の向上ができる看護を目指す。
	老年看護学方法論Ⅰ (高齢者看護の基本・実践Ⅰ)	高齢者の看護を行ううえで必要となるフィジカルアセスメントや認知症を含むヘルスプロモーションを学ぶ。そして、高齢者が生じやすい主症状について理解し、生活の質の向上をめざした老年看護の基本的な方法について学ぶ。
	老年看護学方法論Ⅱ (高齢者看護の基本・実践Ⅱ)	事例を用いて看護過程について学び、高齢者の看護について学ぶ。そして、高齢者の終末期について人生の終末という視点で看護者の役割について理解する。

小児看護学	小児看護学概論	<p>小児看護の対象であるすべての子どもを理解するためには、成長・発達の特徴を理解する必要がある。子どもと家族を取り巻く環境や諸統計を知り、保健政策の動向について理解できる内容とする。</p> <p>子ども観や小児看護の変遷を理解し、小児看護の役割について学ぶ。「子どもの最善の利益」について考える機会とする。</p>
	小児看護学方法論 I (障害と治療)	<p>小児期の主な疾患の病態・症状・診断・治療について学び、成長発達に応じた看護の理解につなげる。</p>
	小児看護学方法論 II	<p>小児期の健康障害は子どもと家族に影響を及ぼすため、子どもの反応や家族の反応について理解する。子どもの健康障害の経過や症状に応じた看護、各発達段階の特性や健康段階に応じた看護が理解できる内容とする。子どものアセスメントに必要な知識と技術について理解し、健康障害のある子どもと家族への看護過程の展開について理解する。</p>
母性看護学	母性看護学概論	<p>女性の生涯を通して性と生殖に焦点をあて、健康の保持・増進、疾病予防を理解し、母性機能が健全に発揮できるための理解を深める。さらにリプロダクティブヘルス/ライツの概念についての理解も深める。</p> <p>母性観・父性観を成長させ、看護にいかせるよう働きかける。</p>
	母性看護学方法論 I (障害と治療/周産期・新生児)	<p>女性の生涯のうちに発症しやすい健康障害に焦点をあて、病態や症状、その診断方法と治療法について理解する。また、正常な妊娠・分娩・産褥の経過および新生児の生理機能について理解する。</p>
	母性看護学方法論 II (周産期・新生児の看護)	<p>生理的な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児、並びにハイリスクの妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護について理解する。そして、妊婦・産婦・褥婦、新生児とその家族に必要な看護技術を習得する。</p>
精神看護学	精神看護学概論	<p>精神看護学の対象は、ライフサイクルのすべての段階にある人間であり、すべての看護学の根幹となる。本科目では、人間の心の発達から精神的健康の維持・増進、危機への対応、さらには精神を障害された個人および家族の援助、生活指導、リハビリテーション、その後のフォローまでを包括する広範なものである。看護の対象を理解するためにも、精神保健医療の変遷と現状社会の課題や精神保健活動および精神保健福祉について学ぶ。</p>
	精神看護学方法論 I (障害と治療)	<p>精神疾患の病態生理や症状、診断方法について理解する。また、精神疾患の検査や治療方法について学ぶ。</p>
	精神看護学方法論 II	<p>精神看護に必要な判断と、各症状に関する知識および看護の基本的援助について理解する。社会復帰を目指す精神障害者への看護についても学ばせる。また、プロセスレコードについて演習を行い、学生の自己洞察を深める技術についても学ぶ。</p>

看護の統合と実践	看護管理と医療安全	<p>チーム医療における看護師としての調整とリーダーシップ、およびマネジメント能力を養うために看護管理について理解を深める必要がある。また、看護サービスのマネジメントの中で、リスクマネジメントは重要な内容のひとつである。疾病構造の複雑化、医療機器の進歩による技術の複雑・繁雑化のなか、医療事故の増加が見られる。そして、患者権利の主張により訴訟問題も増加傾向にある。医療が人の手によって支えられているかぎり、事故やエラーはおこりうる。それを前提にし、医療現場におけるエラーを防ぐためにはどうすべきか、看護業務と医療事故の構造を理解した上で、事故防止の考え方や知識を学ぶために医療安全に関する学習は不可欠であると考え、「看護管理と医療安全」という科目を設定した。</p>
	看護研究	<p>看護は専門職であり、看護学やその周辺領域の最新の研究成果に目を通し、その知見を批判的に咀嚼した上で日々の看護活動において気づいたことを地道に掘り下げ、よりよい看護実践につなげていくことも看護職の役割のひとつである。そこで、学習者が研究の必要性を理解し、将来さらに探求し未知の分野の研究や改善方法を考案する糸口にしたいと考えその内容を「看護研究」とした。</p>
	災害看護と国際看護	<p>日本という枠組みを超えた国際社会を視野に入れ、看護専門職としてグローバルな視点をもった個人を育てる内容として、「災害看護と国際看護」を設定した。近年、自然災害や人的災害など、災害がもたらす人々の健康障害、社会的問題が増加傾向にあるためそれらについて学び、看護の役割を理解する能力が求められている。被災地という特殊な状況下で行われる緊急医療、復興期援助、感染症対策、避難施設の保健対策、精神的ケア、災害病弱対策などの実例を広範囲に取り上げ、災害時における保健活動の概要を理解すると共に、被災者に必要とされる医療・看護を適応するための基礎的知識を習得する。災害時には救急看護も重要になるため、救急看護の内容も含める。</p>
	臨床判断能力	<p>学生の看護実践能力の強化が重要視されている。臨床判断能力は臨床的思考のひとつであり、対象者の反応からその場で考え出して行う判断である。そこで、学生自身が少しでも自信をもって卒業、スムーズに臨床に入れるように設定した。既習の知識・技術・態度を基に実践に即した基本技術を展開し、総合的評価を行うことによって技術の習得状況を確認する機会とする。</p>



## 主要概念の定義

### 1)人間

- ・人間は、身体的・精神的・社会的側面を持つ統合体である
- ・人間は個としての存在であり、さまざまなニーズを満たしながら行動している
- ・人間は胎生期から老年期までのいずれかの発達段階にあり、成長・発達し続ける存在である
- ・人間は固有の価値観を持ち自らの責任において意志決定し、自己実現へ向かう存在である
- ・人間は各々の生活史をもつ唯一無二の存在で基本的権利を有する
- ・人間は自然・社会・文化的環境との相互作用により、絶えず変化している

### 2)健康

- ・健康状態には最良の健康から死に至るまで連続的なレベルがあり絶えず流動的である
- ・最良の健康状態とは、その人の身体的・精神的・社会的機能が発揮され、自己実現を目指し、環境に適応している状態である
- ・健康状態は個体要因と自然・社会・文化的環境との相互作用において成り立つ
- ・健康は人間の基本的権利であって、個人特有なものであり、人それぞれが自ら創るものである

### 3)看護

- ・看護の対象は、あらゆる健康の段階にある個人・家族・集団であり、成長・発達段階にあるすべての人々である
- ・看護は、その人に備わっている力を最大限に引き出し、最良の健康な状態になるように支援し、最期まで生を全うできるようにすることである
- ・看護は、対象者と看護者との人間関係を基盤として行う
- ・看護は、対象の健康に関する問題を解決するために系統的に働きかける
- ・看護は、対象者の日常生活を支援するための科学的な根拠に基づいた実践である
- ・看護は、専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームの中で調整の役割を担う

### 4)環境

- ・環境は、内部環境(個体)と外部環境(自然・社会・文化的環境)があり、人間とその生活を取り巻くすべてである
- ・環境は、人間の健康に影響を及ぼし、人間も環境を変化させる存在である

### 5)学習

- ・学習は、自己実現を目指した主体的な活動であり、生涯にわたるものである
- ・学習は、知識や技術・態度を獲得しようとする行動とその過程である
- ・学習者の経験は、貴重な学習資源であり、知識の応用や行動の統合を可能にする

### 6)教育

- ・教育は、教育者と学習者が互いに学び合い、成長していく過程である
- ・教育は、学習者の潜在能力を引き出し、育む行為である
- ・教育者は、学習者が主体的に学び続けることができるように支援していく
- ・教育者は、自己研鑽に努め、学習者へ看護に対する情熱を伝えていく

7)いのち

- ・生物の生きていく原動力、生命力
- ・すべての人びとに最も大事で、尊重されるもの
- ・個別性があり、人生において思いや願いを支える存在、価値観

8)くらし

- ・意思や考えを反映している
- ・暮らす場所は地域、社会
- ・文化、ライフスタイル、信念、信条に影響を受け、個人によって異なる

9)尊厳

- ・自分に主導権があることや自分の価値を実感でき、すべての人に死後も含めていつでも等しく適用されるもの

# 1 年次履修科目

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

分野	基礎分野	科目名	論 理 学 I (文章表現)	
開講時期	1年次(前期・後期)	単 位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
				論理カワークノート 難波博孝:第一学習社 なぜ国語を学ぶのか 村上慎一:岩波書店 バカロニア幸福論 坂本尚志:星海社 小論文 大堀精一:講談社
担 当 講師名	末岡 洋	実務経験	—	
学習目標 1. 論理的思考と表現の基礎を学び、語彙力を養成する 2. 小論文の基本を習得する			評価方法・配点	
			筆記試験	80%
			課題提出	20%
回	授 業 計 画			備考(提出物)
1	第1講 論理と表現について (1)論理学(logic) (2)文章の聞き取り (3)新聞の社説と読み方 (4)「論理カワークシート」 ①相手意識・目的意識 ②言い換え・要約			課題1 投稿欄の「オピニオン」を 原稿用紙に筆写する
2	第2講 文章要約について (1)「原稿用紙の使い方の注意点」の注意点 (2)文章の構想メモ (3)「論理カワークシート」 ③問い(問題意識)と答え ④具体・抽象(一般)			課題2 投稿欄の「オピニオン」に ついて ①「テーマの見出し」を10字以内で記す ②「意見・主張」を10字以内で記す ③「本文の要約」を50字以内で記す
3	第3講 文章表現について (1)投稿欄の「オピニオン」について (2)文章要約の留意点 (3)中心的主張 (4)文章の構想メモについて (5)文章の構想案 (6)「論理カワークシート」 ⑤対比・類比 ⑥原因・結果			課題3 「対義語」「カタカナ語」 「欧文用語」を演習する
4	第4講 小論文の基礎 I (1)語彙について (2)文章の構想案について (3)社説の着眼点 (4)「論理カワークブック」 ⑦グラフ・表 ⑧主張・理由・具体例			課題4 「小論文の構想メモ」を 作成する
5	第5講 小論文の基礎 II (1)医療に関する構想メモ(平面図)について (2)小論文の構想メモ、小論文の構想案 その1 (3)小論文作成の留意点 (4)隠れた前提について (5)「論理カワークシート」 ⑨主張・理由・具体例・隠れた前提			課題5 「小論文の構想案」を 作成する
6	第6講 小論文の基礎 III (1)小論文の構想メモ、小論文の構想案 その2 (2)医療に関する小論文の構想案(立体図)について (3)ある学生の「医療」に関する小論文の平面図と立体図 (4)「論理カワークシート」 ⑩譲歩表現			課題6 「小論文」を800字で 作成する
7	第7講 小論文について (1)小論文の総合批評 (2)小論文の講評 (3)「論理カワークシート」 ⑪演繹・帰納 演習① 演習②			

分野	基礎分野	科目名	論 理 学 II (論理的思考)	
開講時期	1年次(前期)	単 位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担 当 講師名	篠原 駿一郎	実務経験	—	配付資料
学習目標 看護職には、幅広い知識や教養が求められるだけでなく、患者や医療スタッフとの高度なコミュニケーション能力が必要とされる。この講義では、医療に関する様々な資料に触れ、それを読み取り、論点を把握し、要約し、人に伝える能力を磨くと共に、そこで問題とされているテーマについてディベートする能力も養う。				評価方法・配点
				授業参加の熱意 筆記試験 100点
回	授 業 計 画			備 考
1	論理とはなにか 論理と倫理について考える。			
2	医療に関する評論文を読む 評論文の主張を理解する。要約する。テーマについて議論する。			
3	医療に関する新聞記事を読む 新聞記事の構成と読み方を理解する。要約する。テーマについて議論する。			
4	医療に関する学术论文を読む 学术论文を理解する。要約する。テーマについて議論する。			
5	医療に関する法令文を読む 法令文の主意を理解する。要約する。テーマについて議論する。			
6	医療に関する世界の宣言文を読む 宣言文の主張を理解する。要約する。テーマについて議論する。			
7	まとめ			

分野	基礎分野	科目名	心 理 学	
開講時期	1年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担 当 講師名	峯 晃子	実務経験	○	配付資料
	楠本 優子		○	
応戸 絵奈	○			
学習目標 1. 心理学の基礎的な理論、考え方についての知識を深める 2. 人間の発達過程を概観する 3. 心理学の基礎を学び、人の心理や行動、心の健康について考える			評価方法・配点	
			筆記試験 100点	峯先生30点 楠本先生35点 応戸先生35点
回	授 業 計 画			備 考
1	オリエンテーション・心理学の歴史について			1～5峯先生
2	感覚・知覚			
3	記憶			
4	学習・条件付けについて			
5	情動・動機付け			
6	発達心理 ①乳幼児の心理			6～10楠本先生
7	発達心理 ②児童期～青年期の心理			
8	発達心理 ③成人期～老年期の心理			
9	パーソナリティ			
10	職場環境、対人援助職の心の健康			
11	社会心理 ①自己と他者(演習を含む)			11～15応戸先生
12	社会心理 ②集団と個人			
13	社会心理 ③コミュニケーション(演習を含む)			
14	臨床心理 ①ストレス・メンタルヘルス			
15	臨床心理 ②カウンセリング・心理療法			

分野	基礎分野	科目名	社会学	
開講時期	1年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				配布資料
担当講師名	平野 裕子	実務経験	○	
<b>学習目標</b> 1. 人間の社会構造や社会的な人間行動、さらに家族の機能・構造を理解する 2. 自分の住む社会を理解するとともに世界に多様な文化、価値観があることを理解する				評価方法・配点
				出席点 10点 筆記試験 60点 レポート 30点
回	授業計画			備考
	単元	概要	キーワード	
1	人間と社会(1)	社会とはなにか	社会・社会集団・社会規範	
2	人間と社会(2)	社会化:看護学生の社会化	社会化・社会的役割の獲得	
3	家族(1)	家族の種類	核家族・拡大家族	
4	家族(2)	家族の発達課題	家族のライフサイクル	
5	地域社会(1)	地域社会とはなにか	「都市化」「過疎化」	
6	地域社会(2)	地域社会と高齢者の健康	高齢者の孤立	
7	職業集団(1)	医師・患者関係とその変化	医師・患者関係	
8	職業集団(2)	患者中心の医療・チーム医療	医療モデル・生活モデル	
9	現在社会と医療(1)	臓器移植をめぐる患者と医療者の認識(1)	臓器移植、脳死	
10	現在社会と医療(2)	臓器移植をめぐる患者と医療者の認識(2)	死生観、身体観	中間レポート
11	現在社会と医療・福祉(1)	病気と偏見	HIV, ハンセン氏病	
12	現在社会と医療・福祉(2)	健康観の転換	健康生成論	
13	現在医療とグローバル化(1)	医療人の国際移動	外国人看護師・介護士	
14	現在医療とグローバル化(2)	看護は普遍的か?	看護の日・比・尼・超比較	
15	まとめ			* 終講試験 最終日の45分 使用して行う

分野	基礎分野	科目名	教育学	
開講時期	1年次(後期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	榎 景子	実務経験	—	系統看護学講座 基礎 教育学 :医学書院
学習目標 1. 人間形成における教育の役割を理解するとともに看護実践者として生涯学習の必要性を理解する				評価方法・配点
				筆記試験 100点
回	授業計画			備考
	1 社会の中の教育と看護 2 教育とは何か 「教育の概念」 3 教育の対象 「子ども観と発達」 4 社会変動と教育 5 キャリア教育(専門教育) 6 生涯学習 7 教育学 まとめ			



分野	基礎分野	科目名	英語	
開講時期	1年次(前期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	上野 葉子	実務経験	—	クリスティーンのやさしい看護英会話 :医学書院
学習目標				評価方法・配点
1. 医療の現場に必要な英会話表現、医療専門用語を修得する 2. 看護の場において英語によるコミュニケーションが可能になるような実践的な能力を身につける				筆記試験 100点
回	授業計画			備考
1~2	医療専門用語			
3	自己紹介の仕方	( Let me introduce myself . )		
4~5	患者さんへの体調の聞き方	( What is wrong with you? )		
6~7	場所や方向の説明の仕方	( Do you know how to get to the Pediatrics Clinic? )		
8~9	診察時に必要な言い方	( Please take off your under wear.)		
10~11	日常生活に関する質問の仕方	( Do you have any food alleergies? )		
12~13	患者さんの質問への答え方	( The operation is over.)		
14	退院後の生活指導の仕方	( Take care not to eatch a cold. )		
15	まとめ			

分野	専門基礎分野	科目名	栄養と代謝 (生化学/栄養学)	
開講時期	1年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間 生化学10時間 栄養学20時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	生化学:馬場友巳 栄養学:馬場かおり 山中菜穂美	実務経験	○ ○ ○	わかりやすい生化学 ー疾病と代謝・栄養の理解のためにー :ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻栄養食事療法 :医学書院
学習目標			評価方法・配点	
生化学 1. 生体をつくる物質とそれらの仕組み・調整を理解する			筆記試験 生化学:30点 栄養学:70点 (栄養士50点 NST20点)	
栄養学 1. 人間にとっての栄養の意義を学び、病態に基づいた臨床栄養について理解する 2. 臨床栄養における看護の役割を理解する				
回	授業計画			備考
生化学				
1	三大栄養素の構造と種類 グルコースなどの単糖類、スクロースなどの二糖類、デンプンやグリコーゲンなどの多糖類の構造 中性脂肪、リン脂質、コレステロールなどの構造を学ぶ。 タンパク質を構成するアミノ酸とその結合様式を学ぶ。			2章、4章、5章
2	酵素、糖質と脂質の代謝 代謝を調節する酵素の作用機序を学ぶ。 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系とβ-酸化について学ぶ。			3章、4章、5章
3	タンパク質・アミノ酸の代謝、ホルモンと恒常性 各種アミノ酸の代謝と代謝産物を学ぶ。 恒常性の維持に重要なホルモンの分泌臓器やその作用を学ぶ。			6章、8章、10章
4	ビタミンと補酵素、核酸の働き、免疫とアレルギー 酵素の作用を補助する作用などのビタミンの働きと欠乏症を学ぶ。 遺伝情報の伝達を行う核酸の構造や遺伝子発現を学ぶ。 生体防御に関わる免疫系の仕組みとアレルギーを学ぶ。			9章、7章、15章
5	体液と血液 体液の組成を学ぶ。 血液の成分を学ぶ。			12章、13章
栄養学				
1	病院概要・栄養士業務概要 第1章 栄養食事療法とは 第3章 症状をもつ患者の栄養食事療法 第2章 栄養食事療法の実際			
2	第4章 呼吸器疾患患者の栄養食事療法			
	第5章 循環器疾患患者の栄養食事療法			
3	第6章 消化器疾患患者の栄養食事療法			
4	第7章 腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法			
5	第8章 栄養代謝性疾患患者の栄養食 第10章 アレルギー疾患患者の栄養食事療法			
	第9章 血液疾患患者の栄養食事療法			
6	第11章 精神・神経疾患患者の栄養食 第13章 術前・術後の栄養管理			
	第12章 熱傷・褥瘡の栄養食事療法 第14章 がん患者の栄養食事療法			
7	第15章 妊産婦・更年期女性の栄養管 第17章 高齢者の栄養食事療法			
	第16章 小児の栄養食事療法 第18章 医療保険制度・介護保険制度と食事			
8	栄養サポートチーム活動			
9~10	栄養サポートチームにおける看護職の役割 事例検討			

分野	専門基礎分野	科目名	微生物学	
開講時期	1年次(後期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [4]微生物学:医学書院
担当 講師名	庄子 幹郎	実務経験	○	
学習目標 1. 微生物の特徴と人体に及ぼす影響について理解する 2. 病原体と病原体によって起こる疾患との関係を理解する				評価方法・配点
				筆記試験 100点
回	授業計画			備考
1	人類と微生物の関係 微生物の種類と特徴			
2	微生物検査法のいろいろ 感度と特異性、抗原抗体反応、遺伝子診断法、PCR法他			
3	免疫のしくみ 生体の防御機構			
4	感染症の治療および対策			
5	ウイルス学総論			
6	ウイルス各論 ヘルペスウイルス、インフルエンザウイルス、肝炎ウイルス、HIV他			
7	その他の病原微生物 プリオンなど			

分野	専門基礎分野	科目名	人体の構造と機能 (解剖生理学/病態生理学)	
開講時期	1年次(前期・後期)	単 位	2単位:45時間 解剖生理学20時間 病態生理学25時間	テキスト・参考書・使用教材等 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学
担当 講師名	解剖生理学:川添薫 病態生理学:松本逸郎	実務経験	○ ○	疾病の成り立ちと回復の促進 [1]病理学 [2]病態生理学:医学書院
学習目標				評価方法・配点
<p>解剖生理学 1. 人体の基本を理解し、人体解剖、解剖学、生理学、人間生理学の基礎を修得することを目的にする。また、超音波診断装置・模型による解説及び実習も一部含めて内容ごとに学習する</p> <p>病態生理学 1. 病気の原因・病理的变化の特徴から、正常な形態・機能・代謝の変化を学ぶ 2. 病気の原因、病理的变化の特徴から、健康障害のある患者理解の基とする</p>				筆記試験 解剖生理学:50点 病態生理学:50点
回	授 業 計 画			備 考
	<p>解剖生理学</p> <p>1 解剖生理学概論 2 循環器系 3 呼吸器系 4 消化器系 5 内分泌系・免疫系 6 泌尿器系 生殖器系 7 骨格系と筋系 8 神経系 9 感覚器系 10 演習問題と解説</p> <p>病態生理学</p> <p>1~2 体液の異常:水分代謝、脱水、溢水、浸透圧異常、ホルモン調節 電解質異常(Na<sup>+</sup>、K<sup>+</sup>、Ca<sup>2+</sup>、Cl<sup>-</sup>)、ホルモン調節 酸塩基平衡(HCO<sub>3</sub><sup>-</sup>とCO<sub>2</sub>)、酸塩基平衡異常</p> <p>3 循環障害:閉塞と出血、血栓・塞栓、梗塞、再灌流障害 4 呼吸障害:PaO<sub>2</sub>、PaCO<sub>2</sub>、閉塞性疾患、拘束性疾患、COPD 5 炎症:炎症の5徴、Chemical mediators、CRP、赤血球沈降速度 6 発熱:外因性と内因性発熱、消炎鎮痛物質、サイトカイン 7 感染:病原菌、グラム染色、感染経路と様式 8 発症:発症までの経過と徴候、新型コロナパンデミック 9~10 免疫:免疫細胞、自然免疫と獲得免疫 細胞性免疫、液性免疫 11 免疫異常:アレルギー症、自己免疫疾患、アナフィラキシー 12 代謝異常:糖質、脂質、蛋白質の異常代謝</p>			

分野	専門基礎分野	科目名	病 理 学	
開講時期	1年次(前期・後期)	単 位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1]病理学:医学書院
担 当 講師名	宿輪 三郎	実務経験	○	
学習目標 1. 病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響などを理解する				評価方法・配点
				筆記試験 100点
回	授 業 計 画			備 考
1	病因論	病気の概念、病気の原因、病気の分類		
2	循環障害	局所性、全身性の循環障害、リンパの循環障害		
3	炎症と免疫異常	炎症原因と種類、免疫、アレルギー、自己免疫疾患		
4	代謝障害	萎縮、変性、壊死と脂質、タンパク質、糖質など代謝異常		
5	老化と死	細胞の老化、加齢に伴う臓器の変化、脳死など		
6	先天異常と遺伝子異常	遺伝子異常、染色体異常、先天異常の診断		
7	腫瘍	腫瘍の発生原因、良性と悪性の区別、診断と治療		

分野	専門基礎分野	科目名	疾病論 I (呼吸器/循環器)	
開講時期	1年次(前期)	単位	1単位:30時間 呼吸器14時間 循環器16時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	呼吸器: 高橋 淳 循環器: 深江 学芸	実務経験	○ ○	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器 成人看護学[3]循環器: 医学書院
学習目標				評価方法・配点
呼吸器	1. 呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			筆記試験 呼吸器: 50点 循環器: 50点
循環器	1. 循環器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			
回	授業計画			備考
	呼吸器			
1	呼吸器疾患の検査と治療・処置			
2	感染症	インフルエンザ	肺炎 肺結核	
3	間質性肺疾患	間質性肺炎	サルコイドーシス 好酸球性肺疾患 過敏性肺炎 塵肺	
4	気道の閉塞をきたす疾患	気管支喘息	慢性閉塞性肺疾患 睡眠時無呼吸症候群	
5	肺腫瘍			
6~7	肺循環障害 胸膜疾患その他	肺梗塞	肺塞栓症 気胸	
	循環器			
1	循環器疾患の検査と治療・処置			
2~3	虚血性心疾患	狭心症	心筋梗塞	
4	心筋疾患と弁膜疾患	心筋症	弁膜症	
5	心不全			
6	血圧異常	動脈硬化症	高血圧 低血圧	
7	不整脈			
8	動脈系疾患と静脈系疾患	大動脈瘤	閉塞性動脈硬化症 下肢静脈瘤 深部静脈血栓症	

分野	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅱ (運動器/脳神経)	
開講時期	1年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
			運動器10時間 脳神経外科12時間 脳神経内科8時間	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器 成人看護学[7]脳・神経 :医学書院
担当 講師名	運動器 :朝永 正剛 脳神経外科:吉田光一 脳神経内科:島 智秋	実務経験	○ ○ ○	
学習目標				評価方法・配点
運動器	1. 運動器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、 身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			筆記試験 運動器 :35点 脳神経外科:35点 脳神経内科:30点
脳神経	1. 脳神経疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、 身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			
回	授業計画			備考
運動器				
1	運動器疾患の検査と治療・処置			
2	外傷性(外因性)疾患	骨折	脱臼 神経損傷 筋、腱損傷	
3	炎症性疾患 骨粗鬆症 骨腫瘍	変形性関節症	関節リウマチ	
4	筋・腱の疾患 神経の疾患 上肢の疾患	筋ジストロフィー	重症筋無力症	
5	脊椎の疾患 下肢の疾患	腰痛症		
脳神経外科				
1	脳腫瘍1			
2	脳腫瘍2			
3	血管障害1			
4	血管障害2			
5	外傷・水頭症1			
6	外傷・水頭症2			
脳神経内科				
1	脳神経の検査と治療・処置			
2	脊髄疾患 末梢神経障害	脊髄損傷	ギランバレー症候群 圧迫性神経障害	
3	脱髄、変性疾患  神経系の感染症	多発性硬化症	パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症	
4	中毒 てんかん	認知症		

分野	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅲ (消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科)	
開講時期	1年次(後期)	単 位	1単位:30時間 消化器18時間 内分泌4時間 代謝4時間 眼科2時間 耳鼻科2時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	消化器: 内分泌: 代謝: 眼科:大野 あかね 耳鼻科:橋本 清	実務経験	○ ○ ○	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 成人看護学[6]内分泌・代謝 成人看護学[13]眼科 成人看護学[14]耳鼻咽喉 :医学書院
学習目標				評価方法・配点
消化器	1. 消化器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する		筆記試験	
内分泌・代謝	1. 内分泌・代謝疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する		消化器:50点	
眼科	1. 眼科、耳鼻科疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する		内分泌:15点	
耳鼻科			代謝:15点	
				眼科、耳鼻科は出席を以て各10点
回	授 業 計 画			備 考
	消化器			
1	消化器疾患の検査と治療・処置			
2~3	食道・胃・十二指腸疾患	食道癌	胃癌 胃炎 胃・十二指腸潰瘍	
4~5	腸・腹膜疾患	腸炎 腹膜炎	イレウス 結腸癌 直腸癌	
6~7	肝臓疾患	肝炎	肝硬変 肝癌	
8	胆嚢・膵臓疾患	胆石症	胆嚢および膵臓の炎症と癌	
9	手術療法	甲状腺	乳腺	
	内分泌・代謝			
	内分泌			
1	内分泌疾患の検査	脳幹・下垂体系疾患		
2	甲状腺・副甲状腺・副腎皮質疾患 下垂体腫瘍 甲状腺癌			
	代謝			
1	糖尿病			
2	メタボリックシンドローム	肥満症	脂質異常症 高尿酸血症 痛風	
	眼科			
1	眼科疾患の検査、治療、代表的な眼科疾患			
	耳鼻科			
1	耳鼻科疾患の検査、治療、代表的な耳鼻科疾患			



分野	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅳ (血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科)	
開講時期	1年次(後期)	単位	1単位:30時間 血液・造血器8時間 免疫8時間 腎・泌尿器10時間 口腔2時間 皮膚科2時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	血液・造血器: 免疫: 腎・泌尿器: 口腔:久松 徳子 皮膚科:計盛 幸子	実務経験	○ ○	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器 成人看護学[11]アレルギー/膠原病/感染症 成人看護学[8]腎・泌尿器 成人看護学[15]歯・口腔 成人看護学[12]皮膚 :医学書院
学習目標				評価方法・配点
血液・造血器	1. 血液・造血器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、 身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			筆記試験 血液・造血器:30点 免疫 :20点 腎・泌尿器 :30点 口腔、皮膚科は出席を以て各10点
免疫	1. 免疫系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、 身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			
腎・泌尿器	1. 腎・泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、 身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			
口腔	1. 口腔、皮膚科疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、 身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			
皮膚科	1. 皮膚科疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、 身体アセスメントできる基礎的知識を習得する			
回	授 業 計 画			備 考
	血液・造血器 1 血液・造血器疾患の検査と治療・処置 2 貧血 3 白血病 4 出血性疾患 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫  免疫 1 免疫のしくみ・自己免疫疾患とその機序 2 免疫系の検査と治療 3 アレルギー性疾患 蕁麻疹 接触性皮膚炎 アナフィラキシーショック HIV感染症 4 膠原病 全身性エリテマトーデス 関節リウマチ シェーグレン症候群  腎・泌尿器 1 腎・泌尿器疾患の構造と機能、検査、処置 2 腎・尿路の感染症、通過・機能障害、損傷、結石症 3 腎・尿路・性器の腫瘍 4 先天異常、男性生殖器疾患、他 5 腎不全、腎代替療法  口腔 1 口腔疾患の検査、治療、代表的な口腔系疾患  皮膚科 1 皮膚科疾患の検査、治療、代表的な皮膚科疾患			

分野	専門分野	科目名	看護学概論	
開講時期	1年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	成績評価の方法
				系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 :医学書院
担当 講師名	小田 恭子	実務経験	○	
学習目標 1. 看護の歴史的背景(概念と変遷)、看護の定義、職業、および学問としての位置づけを理解する 2. 人間に対する見方・考え方を学び、看護の対象である人間を総合的に理解する 3. 健康の概念を明らかにし、ヘルスケアシステムについて理解する 4. 看護における倫理の考え方、倫理的問題について理解する 5. 先人の看護理論について学び、自己の看護観及び看護に対する考え方を				評価方法・配点
				筆記試験:100点
回	授業計画			備考
1	看護とは			
2	看護の役割と機能			
3	看護の対象の理解			
4	人間の暮らしの理解			
5	健康のとらえ方			
6	職業としての看護			
7	看護職者の継続教育とキャリア開発			
8	看護における倫理			
9	看護の提供のしくみ			
10	看護をめぐる制度と政策			
11	看護サービスの管理			
12	医療の質保証			
13	国際化と看護			
14	災害時における看護			
15	主要な看護理論家の看護概念			

分野	専門分野	科目名	技術論Ⅰ (臨床判断の基礎)	
開講時期	1年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	峰 雪絵	実務経験	○	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論:医学書院
学習目標				評価方法・配点
1. 臨床判断モデルの4つのフェーズ「気づく」「解釈する」「反応する」 「省察する」について理解する 2. 臨床判断を行うための基礎的能力を養う 3. リフレクションを通して自らの思考を広げたり、深めることができる 4. 看護実践の基盤となる観察技術・フィジカルアセスメントの基本的な知識・ 技術を習得する				出席状況 課題レポート提出状況 筆記試験 100点
回	授業計画			備考
1	臨床判断とは			演習含む
2	臨床判断モデルの4つのフェーズ			
3	事例による学習			
4	気づくラウンド リフレクション			
5～6	臨床判断モデルを取り入れた事例演習			
7～14	看護におけるヘルスアセスメント 1. 系統別フィジカルアセスメント 呼吸器、循環器のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント 感覚器、神経系のフィジカルアセスメント 筋、骨格系のフィジカルアセスメント 2. 社会・心理面のアセスメント			
15	まとめ			

分野	専門分野	科目名	技術論Ⅲ (日常生活援助技術)	
開講時期	1年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ :医学書院 配付資料
担 当 講師名	橋口 あゆみ	実務経験	○	
学習目標			評価方法・配点	
1. あらゆる健康レベルの対象に、安全・安楽・自立・個別性を考慮し、日常生活行動を充足するための援助技術を修得する			筆記試験 提出レポート 小テスト 出席状況 総点100点	
回	授 業 計 画			備 考
	1 科目の位置づけと講義内容の確認 患者の事例提示(日常生活援助技術の修得に向けて)  2 看護技術の基本動作の確認  3 食事・排泄に関する看護技術 (アセスメント・看護技術)  4・5 事例の患者への看護の適用① 援助計画の立案  6～8 事例の患者への看護の適用② 基本動作の確認  9～11 事例の患者への看護の適用③ 援助計画に基づいた看護の実践  12 看護実践内容の発表  13・14 総合演習  15 技術論Ⅲのまとめ			

分野	専門分野	科目名	地域・在宅看護総論 (看護の対象である人とくらしを理解する)	
開講時期	1年次(後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア:メディカ出版
担当 講師名	林田 淳子	実務経験	○	
学習目標			評価方法・配点	
1.看護の対象のくらしを理解する 2.地域・在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念を理解する 3.地域・在宅看護を必要とする人とその家族の特徴を理解する 4.地域・在宅看護の活動の場と特徴を理解する			課題レポート 筆記試験 100点	
回	授業計画			備考
	1 在宅医療の現状、課題～「日本」と「長崎」を中心に 2 地域でくらすということ、支えあって生きるということ～「自助」「互助」「共助」「公助」 3 地域の人々のくらしを支える看護とは 4 在宅看護の変遷～くらしの中の看護の変遷 5 在宅看護の目的と特徴 ～背景、位置づけ、定義、目的・機能、施設内看護と在宅看護の違い 6 在宅看護における権利保障 7 対象の理解①(療養者)～年齢、疾患、障害、療養状態別(予防、初期～終末期) 8 対象の理解②(家族)～家族介護者の特徴 9・10 地域療養を支える制度とシステム① ～介護保険制度、医療保険制度、後期高齢者医療制度、障害者総合支援法、 難病法、医療的ケア児支援法、生活保護、その他 11・12 地域療養を支える制度とシステム② ～訪問看護ステーションに関する規定、訪問看護記録、その他 13 地域療養を支える制度とシステム③ ～訪問看護以外のサービス(介護給付サービス他)、社会資源の活用 14 地域療養を支える制度とシステム④ ～病院から在宅へ、退院調整と退院支援、継続看護 15 まとめ			専任教員

分野	専門分野	科目名	成人看護学概論	
開講時期	1年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論 :医学書院 国民衛生の動向:厚生統計協会
担当 講師名	伊東 美穂	実務経験	○	
学習目標				評価方法・配点
1. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する 2. 成人保健の動向について理解する 3. 多様な健康問題に対する成人看護の機能と役割について理解する 4. 成人の健康保持・増進、疾病予防のための看護について理解する 5. 成人の看護に有用な理論を理解する				筆記試験 提出レポート 100点
回	授業計画			備考
1	1. 成人看護学の概念 1) 成人看護学の対象 2) ライフサイクルにおける成人の位置づけ・特徴			
2～3	1. 成人各期の対象特性の理解 (青年期・壮年期・向老期) 1) 成人の身体的・心理的・社会的特徴 2) 成人の発達課題			
4	1. 成人の生活と健康 1) 成人各期における生活の特徴 2) 成人の生活と健康			
5～6	1. 成人の健康に関する施策と生活習慣病 1) 生活習慣病とは 2) 生活習慣病の予防対策 3) 代表的な健康施策			
7～8	1. わが国の人口動態と保健統計 1) 日本の人口動態 2) 成人の健康状態と保健統計			
9～10	1. 成人の労働と健康 1) 労働の概念 2) 労働の実態と社会状況 3) 職業に関連する健康障害			
11	1. 大人の健康行動を促進する援助 1) 成人教育学(アンドラゴジー) 2) 行動変容を促進する看護アプローチ トランスセオレティカルモデル      エンパワメントエデュケーション			
12～14	1. 成人看護学に有用な理論 1) 自己効力 2) 意思決定支援 3) セルフケア理論 4) ストレスコーピング理論			
15	まとめ			

分野	専門分野	科目名	成人看護学方法論Ⅰ (呼吸器/循環器/腎・泌尿器)	
開講時期	1年次(後期)	単位	1単位:30時間 呼吸器10時間 循環器10時間 腎・泌尿器10時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	呼吸器: 循環器:木村恵利華 腎・泌尿器:松山由実	実務経験	○ ○	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器 成人看護学[3]循環器 成人看護学[8]腎・泌尿器 :医学書院
学習目標			評価方法・配点	
1. 呼吸機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する 2. 循環機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する 3. 腎・泌尿器機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する			筆記試験:総点100点 呼吸器:35点 循環器:35点 腎・泌尿器:30点	
回	授業計画			備考
呼吸機能障害患者の看護				
1	呼吸機能障害のある患者の看護の特性 身体的・心理的・社会的特徴			
2	呼吸困難のある患者の看護			
3	治療を受ける患者への看護 (人工呼吸器、酸素療法、胸腔ドレナージ、吸入療法)			
4~5	病期や機能障害に応じた看護 (肺がん、肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気胸)			
循環機能障害患者の看護				
1	循環機能障害のある患者の看護の特性 身体的・心理的・社会的特徴			
2	検査・処置を受ける患者への看護 (心電図、血管造影、心臓カテーテル)			
3	治療を受ける患者への看護 (経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス術、ペースメーカー、心臓リハビリテーション)			
4~5	病期や機能障害に応じた看護 (心不全、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、動脈系疾患、静脈系疾患)			
腎・泌尿器機能障害患者の看護				
1	排泄機能障害のある患者の看護の特性 身体的・心理的・社会的特徴			
2~3	検査・処置を受ける患者への看護 治療を受ける患者への看護 (食事療法、血液透析、腹膜透析、腎移植)			
4~5	病期や機能障害に応じた看護 (急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病、腎移植術後)			

分野	専門分野	科目名	成人看護学方法論Ⅱ (運動器/脳神経/血液・造血器)	
開講時期	1年次(後期)	単位	1単位:30時間 運動器10時間 脳神経10時間 血液・造血器10時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	運動器: 大田直樹 脳神経: 血液・造血器: 山形葉	実務経験	○ ○ ○	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器 成人看護学[7]脳・神経 成人看護学[4]血液・造血器 :医学書院
学習目標			評価方法・配点	
1. 運動機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する 2. 脳神経機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する 3. 血液・造血器機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する			筆記試験:総点100点 運動器:35点 脳神経:35点 血液・造血器:30点	
回	授業計画			備考
運動機能障害患者の看護				
1	運動機能障害のある患者の看護の特性 身体的・心理的・社会的特徴			
2	検査・処置を受ける患者への看護 (関節可動域検査、徒手筋力テスト、関節造影、脊髓造影)			
3	治療を受ける患者への看護 (ギプス固定、牽引法、手術療法、リハビリテーション)			
4~5	病期や機能障害に応じた看護 (骨折、変形性関節症、関節リウマチ、椎間板ヘルニア、四肢切断後)			
脳神経機能障害患者の看護				
1	脳神経機能障害のある患者の看護の特性 身体的・心理的・社会的特徴			
2	検査・処置を受ける患者への看護 (脳波、腰椎穿刺、脳血管造影、画像検査)			
3	治療を受ける患者への看護 (手術療法、リハビリテーション)			
4~5	病期や機能障害に応じた看護 (脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊髓損傷、神経難病)			
血液・造血機能障害患者の看護				
1	血液・造血器機能障害のある患者の看護の特性 身体的・心理的・社会的特徴			
2	検査・処置を受ける患者への看護 (骨髄検査)			
3	治療を受ける患者への看護 (化学療法、免疫抑制療法、造血幹細胞移植)			
4~5	病期や機能障害に応じた看護 (白血病、貧血、骨髄腫、血小板減少症)			



分野	専門分野	科目名	成人看護学方法論Ⅲ (消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア)	
開講時期	1年次(後期)	単 位	1単位:30時間 消化器14時間 内分泌・代謝4時間 乳腺2時間 緩和ケア10時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	消化器:福井陽子 内分泌・代謝:小田恭子 内分泌・代謝:富永玲子 乳腺:甲斐加奈 緩和ケア:増田弓華子	実務経 験	○ ○ ○ ○ ○	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 成人看護学[6]内分泌・代謝 成人看護学[11]アレルギー・膠原病感染症 成人看護学[9]女性生殖器 系統看護学講座 別巻緩和ケア :医学書院
学習目標			評価方法・配点	
1. 消化・吸収機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の 実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する 2. 内分泌・代謝機能障害並びに乳腺疾患患者へ科学的根拠に基づいた 看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する 3. 緩和ケアを必要とする患者・家族へ科学的根拠に基づいた看護の 実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する			筆記試験:総点100点 消化器:50点 内分泌・代謝:10点 乳腺:10点 緩和ケア:30点	
回	授 業 計 画			備 考
	消化・吸収機能障害患者の看護 1 消化・吸収機能障害のある患者の看護の特性 身体的・心理的・社会的特徴 2 検査・処置を受ける患者への看護 3 (消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影 消化管造影検査、画像検査、肝生検、腹腔鏡) 4 治療を受ける患者への看護 (手術療法、内視鏡的粘膜切除術、腹腔鏡下手術、人工肛門造設術) 5~7 病期や機能障害に応じた看護 (食道がん、胃がん、大腸がん、結腸がん、肝臓胆嚢膵臓疾患)			
	内分泌・代謝機能障害患者の看護 1 糖尿病患者の看護 食事療法・運動療法・薬物療法・日常生活指導 2 甲状腺疾患患者の看護			
	乳腺疾患患者の看護 1 乳がん患者の看護 乳房切除術			
	緩和ケアを必要とする対象への看護 1~2 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 (がん患者、慢性心不全患者、慢性呼吸不全患者、難病患者) 3~4 エンドオブライフケア (症状アセスメントとマネジメント、全人的苦痛、意思決定支援、予期悲嘆、 アドバンスケアプランニング、家族への支援) 5 臨死期の看護 (身体的特徴、心理的特徴、家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援)			

分野	専門分野	科目名	老年看護学概論	
開講時期	1年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 老年看護学:医学書院 国民衛生の動向:厚生統計協会
担当 講師名	西口 育子	実務経験	○	
学習目標			評価方法・配点	
1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を学び、老年期にある看護の対象を理解する 2. 加齢に伴う対象の健康状態と高齢者の看護の機能と役割を理解する 3. 社会構造の変化に伴う高齢者の保健、医療、福祉の場における看護師の役割を理解する 4. 高齢者のQOLや人権の尊重、倫理について学び、対象に応じた看護を理解する			出席状況・授業態度 提出レポート 筆記試験 100点	
回	授業計画			備考
1	高齢者とは			
2	高齢者の特徴と理解			
3	高齢者にとっての健康			
4	高齢者とQOL			
5	加齢にともなう変化			
6	高齢者の生活と家族			
7	高齢者が生活する場			
8	高齢者を支える制度			
9・10	高齢者を支える社会資源			
11	地域包括ケアシステムと多様な生活の場			
12	高齢者看護にかかわる諸理論			
13・14	高齢者看護における倫理			
15	まとめ			

分野	専門分野	科目名	母性看護学方法論Ⅰ (障害と治療/周産期・新生児)	
開講時期	1年次(後期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	障害と治療:宮村泰豪 周産期・新生児:	実務経験	○ ○	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 母性看護学[2] 母性看護学各論 :医学書院
学習目標				評価方法・配点
1. 人間の性と女性生殖の機能について理解できる 2. 女性生殖器疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療について理解する 3. 正常な妊娠・分娩・産褥の経過および新生児の生理機能について理解する 4. 妊娠・分娩・産褥および新生児の異常経過について理解できる				筆記試験:総点100点 障害と治療:50点 周産期・新生児:50点
回	授業計画			備考
障害と治療				
1	1. 人間の性と生殖 1)ヒトの発生と遺伝的要素 2)性と生殖機能のメカニズム			
2～3	1. 女性生殖器の主な疾患の病態生理・検査と治療・処置			
周産期・新生児				
4	1. 正常妊娠の成立機序と母体の生理的变化			
5	1. 正常な妊娠・分娩の経過 1)妊娠の経過と診断 2)胎児の発育と健康状態の診断 3)分娩の機転と正常分娩の経過			
6～7	1. 異常な妊娠・分娩・産褥および新生児の経過 1)妊娠の異常 (1)妊娠合併症 妊娠悪阻、妊娠貧血、妊娠糖尿病、多胎妊娠、骨盤位 (2)流産・早産、前置胎盤、妊娠高血圧症候群 2)分娩の異常 (1)帝王切開 (2)骨盤位分娩 3)産褥の異常 (1)子宮復古不全 (2)産褥期の感染症、産褥血栓症、産褥精神障害 4)新生児の異常 (1)低出生体重児、新生児仮死 (2)高ビリルビン血症			

分野	専門分野	科目名	精神看護学概論	
開講時期	1年次(前期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎:医学書院
担当講師名		実務経験	○	
学習目標			評価方法・配点	
			出席点、課題レポート 筆記試験:総点100点	
1	精神看護学で学ぶこと			
2~4	暮らしの場と精神(心)の健康			
5~7	精神(心)の危機状況と精神保健			
8~10	現代社会の特徴:社会構造の変化と社会病理			
11~12	現代社会における精神保健の主な問題			
13~14	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿			
15	精神保健活動、精神保健福祉に関する法律			
回	授業計画			備考

分野	専門分野	科目名	精神看護学方法論Ⅰ (障害と治療)	
開講時期	1年次(前期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 :医学書院
担当 講師名	辻田 高宏	実務経験	○	
<b>学習目標</b> 1. 精神疾患の病態生理、症状、診断について理解する 2. 精神疾患の検査・治療について理解する				評価方法・配点
				筆記試験 100点
回	授業計画			備考
1	精神科疾患のあらわれ方			
2	精神障害の診断と分類			
3～5	主な疾患の病態生理と症状			
6～7	精神科での治療			

## **2 年次履修科目**

**基礎分野**

**専門基礎分野**

**専門分野**

分野	基礎分野	科目名	情報科学	
開講時期	2年次(前期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	柳生 大輔	実務経験	○	ていねいな保健統計学 白戸亮吉, 鈴木研太:羊土社 他
学習目標				評価方法・配点
1. PCや基本アプリケーションについて理解し、その機能を使うことができる 2. 看護研究等で必要な統計処理について、その理論が理解できる また、実際に手計算やPCを用いて処理を行い、結論を論ずることができる 3. 自分が出した・導いた結果をプレゼンテーションを通じて表現し、他人に伝えることができる				複数回実施する小テストの点数及び 課題成果物の評価等に基づき 総合的に評価する 100点
回	授業計画			備考
1	ガイダンス PCと表計算ソフトの基本操作			入力したデータの 保管に必要です ので、2回目の講 義時までには各自 USBメモリの準備 をお願いします
2	看護のための情報リテラシー			
3	看護におけるICT			
4~5	看護研究と統計学・統計の基礎知識 看護で得られるデータと統計的方法 データ入力・データの整理と検索 データの尺度と代表値、基本統計量 度数分布・ヒストグラム 小テスト			
6~7	記述統計 グラフ作成 散布図と相関 回帰直線			
8~9	推測統計 母集団と標本 確率分布 区間推定 小テスト			
10~11	プレゼンテーション プレゼンテーションソフトウェアの使用法 プレゼンテーションの作成技術 オンラインでのプレゼンテーション 実演プレゼンテーション作成			
12~13	仮説検定 検定の手順 平均値に関する検定 比率に関する検定 小テスト			
14~15	プレゼンテーション実演・相互評価			

分野	基礎分野	科目名	保 健 体 育	
開講時期	2年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間 保健体育の基礎16時間 レクリエーション8時間 リラクゼーション6時間	テキスト・参考書・使用教材等
担 当 講師名	保健体育の基礎：小原 達朗 レクリエーション：吉村 正春 リラクゼーション：清水 志保	実務経験	— ○ ○	配布資料
学習目標			評価方法・配点	
1. 運動、スポーツ、体力についての正しい知識を習得する 2. 疾病と運動の関係について理解する 3. スポーツの実技を通して、運動に親しみ、健康の維持・増進を図る 4. スポーツや遊びなどのレクリエーション活動を通して、健康や生きがいをつくり出し、人とのコミュニケーションを深め、ライフスタイルを豊かにすることを目的とする また、高齢者や障害をもつ人達がより充実した生活を作り、QOLを向上させるためのレクリエーション活動について理解する 5. リラクゼーションの意義、内容、方法を考える 6. 呼吸法、ストレッチング法、動作法に関する実技を通して、自分にもっとも適したリラクゼーションの方法を開発する			保健体育の基礎 筆記試験:80点 レクリエーション 実技、出席状況:10点 リラクゼーション 実技、出席状況:10点	
回	授 業 計 画			備 考
	保健体育の基礎 1 健康の意味 2 体力とは 3 疾病と運動 4 疾病と運動(生活習慣病と運動) 5 疾病と運動(高齢者の体力と運動) 6 運動と栄養 7 トレーニング法 8 まとめ			講義
	レクリエーション 1 レクリエーションとは(意義・目的) 2 実技 3 実技 4 まとめ			講義・実技
	リラクゼーション 1 リラクゼーションの考え方 2 呼吸法を習得し、ストレッチをする 3 自分のリラクセス法を考えてみる			講義・実技



分野	専門基礎分野	科目名	臨床薬理学 (薬理学/薬物療法看護)	
開講時期	2年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間 薬理学24時間 薬物療法看護6時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3]薬理学 :医学書院
担当 講師名	薬理学:胡 錦萍 薬物療法看護:峰 雪絵	実務経験	— ○	
	学習目標			評価方法・配点
薬理学	1. 各系統に作用する薬物の作用機序および副作用について理解する			筆記試験 薬理学 :90点 薬物療法看護:10点
薬物療法 看護	1. 薬物動態、薬剤管理について理解する 2. 薬物療法における看護師の役割が理解できる			
回	授業計画			備考
	薬理学			
1	末梢神経作用薬(1)	交感神経・副交感神経作用薬		
2	末梢神経作用薬(2)	筋弛緩薬・局所麻酔薬		
3	中枢神経作用薬(1)	全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬・抗てんかん薬		
4	中枢神経作用薬(2)	抗統合失調症薬・抗うつ薬・ 抗パーキンソン症候群薬・麻薬性鎮痛薬		
5	心臓・血管系に作用する薬物(1)	心不全治療薬・狭心症治療薬・抗不整脈薬		
6	心臓・血管系に作用する薬物(2)	抗高血圧薬 他		
7	血液に作用する薬	抗凝固薬・抗血小板薬 他		
8	化学療法薬・抗腫瘍薬			
9	アレルギー・炎症に対する薬物	抗アレルギー薬・ステロイド・NSAIDs		
10	呼吸器系に作用する薬物	気管支拡張薬・鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬		
11	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬・制吐薬・下剤		
12	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬 他		
	薬物療法看護			
1	薬物の基本的性質	薬物の形状、与薬方法、薬物動態、		
2	薬物療法における看護師の役割	医薬品の表示・管理・薬理作用 薬効に影響を及ぼす要因、薬剤の有害作用		
3	薬物療法と健康管理	アドヒアランス支援		

分野	専門基礎分野	科目名	公衆衛生学	
開講時期	2年次(後期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2]公衆衛生 :医学書院
担当 講師名	有馬 和彦	実務経験	○	評価方法・配点
	水上 諭		○	
学習目標				筆記試験 100点
1. 公衆衛生と予防医学の意義について理解する 2. 健康に関する疫学と統計情報について理解する 3. 健康増進、疾病予防のための保健活動の実際を理解する				
回	授業計画			備考
1	健康と公衆衛生 1)公衆衛生のあゆみ			
2	疾病予防と疫学調査法			
3	疫学と統計に関する指標 1)保健統計の基本的な考え方 2)人口の動向			
4	公衆衛生の対象と活動 1)保健所・保健センターにおける活動 2)母子保健 3)地域保健			
5	環境と公衆衛生 1)人間と生活環境 2)健康問題と環境			
6	難病対策			
7	保健行政			

分野	専門基礎分野	科目名	社 会 福 祉	
開講時期	2年次(前期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3]社会保障・社会福祉 :医学書院
担 当 講師名	飛永 高秀	実務経験	—	
学習目標 1. 保健、医療、福祉についての基本概念、関係制度、 関係する職種の役割について学び、健康や障害の 状態に応じた社会資源の活用ができる基礎的知識 を習得する				評価方法・配点
				筆記試験 100点
回	授 業 計 画			備 考
1	社会保障制度と社会福祉(社会保障の概念・概要・目的)			
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の基本的性格と動向			
3	医療保障			
4~5	介護保障			
6	所得保障			
7	公的扶助			
8~11	社会福祉の分野とサービス(高齢者・障害者・母子・児童家庭)			
12~13	社会福祉実践と医療・看護の連携			
14	社会福祉の歴史			
15	まとめ			

分野	専門基礎分野	科目名	生命倫理	
開講時期	2年次(前期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				DVD 配布資料
担当講師名	篠原 駿一郎	実務経験	—	
学習目標 1. 医療倫理を含む生命倫理を主題とし、医学医療のあるべき姿を考える 2. 看護職者が医療の現場で会う様々な倫理的問題に対応するための思考力を鍛える				評価方法・配点
				筆記試験 レポート 100点
回	授業計画			備考
1～2	生命倫理(医療倫理)とは何か 伝統的医療倫理、生命倫理の誕生			
3～5	生殖医療の倫理 生殖補助医療、出生前診断			
6～9	病気治療の倫理 病気の告知、治療拒否、臓器移植、性転換手術、発症前診断			
10～12	終末期医療の倫理 治療停止、死の自己決定、安楽死、ホスピスケア			
13～14	医療と社会 優生政策、医療資源の配分、病院の役割			
15	まとめと終講試験			

分野	専門分野	科目名	技術論Ⅱ (看護過程)	
開講時期	2年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	林田 淳子	実務経験	○	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ:医学書院 看護診断ハンドブック第11版:医学書院 配付資料
学習目標				評価方法・配点
1. 看護を実践するための科学的な思考のプロセスを理解し、看護過程の展開の技術を修得する 2. 看護記録としてのPONRについて理解し、その方法を修得する				①筆記試験 ②課題レポート提出状況  ①②より総合的に評価する(100点)
回	授業計画			備考
	1 看護過程の展開を学ぶにあたって 看護過程を展開する際に基盤となる考え方  2 看護とリフレクション 事例で学ぶ看護過程の展開 ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程の展開  3～5 事例で学ぶ看護過程の展開 アセスメント(情報の収集と分析)  6 事例で学ぶ看護過程の展開 看護問題の明確化(看護診断)  7～9 事例で学ぶ看護過程の展開 情報の関連性の図式化  10～12 事例で学ぶ看護過程の展開 看護計画の立案  13～15 実施と評価 看護記録 報告			

分野	専門分野	科目名	技術論Ⅳ (臨床看護総論/学習支援)	
開講時期	2年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間 臨床看護総論16時間 学習支援 14時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	臨床看護総論:伊東美穂 臨床看護総論:田島純子 学習支援:橋口あゆみ	実務経験	○ ○ ○	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2]基礎看護技術Ⅰ [4]臨床看護総論 :医学書院
学習目標			評価方法・配点	
1. さまざまな健康上のニーズをもつあらゆる年齢層の人々に、既習の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用するプロセスやその看護の実際および実践について理解する 2. 看護における学習支援の目的と意義を理解する 3. 人々の健康にかかわる学習を支援する看護技術について、特徴など基礎的な知識を学ぶ 4. 事例をもとに、学習支援の実際について学ぶ			筆記試験 臨床看護総論 50点 (認定看護師の内容含む) 学習支援 50点 授業態度(参加度・協力度)、出欠状況 課題、提出物状況	
回	授 業 計 画			備 考
	<b>臨床看護総論</b> 1～3 1. 健康状態の経過に基づく看護 各健康段階の定義 対象の理解 看護の役割 各健康問題における看護問題の分析 問題の明確化  4～5 1. 主要な症状を示す対象者への看護 1) 症状が日常に及ぼす影響 2) 症状に対する援助  6～8 1. 治療・処置を受ける対象者への看護 1) 食事療法を受ける対象者への看護(経管・経腸栄養法を含む) 2) 創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 3) 輸血療法を受ける対象者への看護 2. 手術療法を受ける対象者への看護			GW  GW 認定看護師2H
	<b>学習支援</b> 1～2 1. 看護における学習支援 学習に関わる諸理論 2. 健康に生きることを支える学習支援 健康に関する考え方の変遷 学習支援の場 3. 健康状態の変化に伴う学習支援  3～4 1. 対象に合わせた学習支援の方法と媒体の工夫 1) 指導計画書(個別指導) 2) 指導の媒体 教材作成  5～6 1. 学習支援の実際 2. リフレクション  7 まとめ			個人ワーク  演習 GW

分野	専門分野	科目名	技術論 V (診療の補助技術)		
開講時期	2年次(後期)	単位	1単位:30時間		テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	峰 雪絵	実務経験	○		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3]基礎看護技術Ⅱ : 医学書院
学習目標			評価方法・配点		
1. 検査・治療・処置における看護師の役割を再認識し、援助技術を修得する			出席状況 課題、ワークシート提出状況 *演習欠席は減点 筆記試験 100点		
回	授業計画				備考
1~2	1. 検査、治療、処置に伴う援助技術 1)呼吸や循環を整える技術				
3~4	2)与薬の技術	外用薬の皮膚・粘膜適応		注射法 輸血療法	グループワーク
5~6	3)症状、生体機能管理技術	検体検査、生体検査(生体情報モニタリング)			
7~8	4)侵襲的処置の介助技術				
9~14	一時的吸引 静脈血採血 点滴静脈内注射 筋肉内注射				演習
15	まとめ				

分野	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ (地域ケアマネジメントと多職種連携)	
開講時期	2年次(前期・後期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	荒木 奈緒美 永富 幸美 宮崎 郁子	実務経験	○ ○ ○	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア:メディカ出版
学習目標 1. 地域で生活・療養する人とその家族を支える保健医療福祉制度を理解する 2. 地域における看護師の役割・機能、多職種連携を理解する 3. 地域・在宅看護におけるケアマネジメントの重要性を理解する				評価方法・配点 総点100点 課題レポート 筆記試験
回	授業計画			備考
	1 在宅看護を支える制度とシステム ～地域包括支援センター、居宅介護支援事業所(ケアプランセンター) 2 ケアマネジメントの理解・地域アセスメント・プロセスについて 3 地域における多職種の役割と連携～地域包括ケアシステム 4・5 介護保険制度と介護支援専門員 6・7 ICF理論			外部講師     外部講師



分野	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ (家族看護と在宅看護過程)	
開講時期	2年次(前期)	単 位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
				ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術:メディカ出版
担当 講師名	林田 淳子	実務経験	○	
学習目標 1.訪問看護の展開のプロセスを理解する 2.在宅療養者と家族の看護を理解する			評価方法・配点	
			総点100点 課題レポート 筆記試験	
回	授 業 計 画			備 考
1・2	家族看護～家族の定義、家族理論、家族アセスメント			専任教員
3	家族看護～療養者を抱える家族への影響、介護負担を減らすための支援			
4～7	在宅療養における看護過程の展開の特徴			

分野	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ (対象のくらしに応じた支援の実際)	
開講時期	2年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担 当 講師名	林田 淳子 清水 仁司 山田 陽子 松井 由恵 他 訪問看護師	実務経験	○ ○ ○ ○ ○	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術:メディカ出版
学習目標 1.地域でくらすさまざまな療養者に合わせた支援・医療ケアの実際を理解する				評価方法・配点
				総点100点 課題レポート 筆記試験
回	授 業 計 画			備 考
1	在宅看護介入時期別の特徴(在宅療養準備期～安定期)			専任教員
2	在宅看護介入時期別の特徴(終末期)			専任教員
3・4	疾病や障がいのある小児とその家族の在宅看護～医療的ケア児他			外部講師
5・6	障がいをもつ療養者とその家族の在宅看護～認知症、精神障害(統合失調症)			外部講師
7・8	慢性疾患をもつ療養者とその家族の在宅看護～COPD(在宅酸素療法)、脳血管障害			外部講師
9・10	終末期にある療養者とその家族の在宅看護～がん(疼痛管理等)、看取り			外部講師
11・12	難病のある療養者とその家族を支える在宅看護～パーキンソン病、ALS、多発性硬化症			外部講師
13・14	独居の療養者に対する在宅看護			専任教員
15	まとめ			専任教員

分野	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ (健康と暮らしを支える技術の基本)	
開講時期	2年次(後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	林田 淳子 松井 由恵 宿輪 海王	実務経験	○ ○ ○	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術:メディカ出版
学習目標 1.地域・在宅看護における基本的な看護技術を理解する 2.地域・在宅看護を実践するための基本的な生活支援技術を理解する				評価方法・配点 総点100点 課題レポートおよび演習の参加状況等 筆記試験
回	授業計画			備考
1	在宅看護技術とは～訪問看護師に必要な基本姿勢、コミュニケーション、面接技法の実際			専任教員
2	在宅におけるフィジカルアセスメント			
3	在宅における基本的な生活支援技術 ①住環境②移動・リハビリテーション③清潔④衣生活⑤食⑥排泄⑦睡眠・休息			専任教員
4・5	医療依存度の高い療養者と家族への支援技術 ①在宅酸素療法②人工呼吸器療法③腹膜灌流④ストーマ管理⑤経管栄養法 ⑥中心静脈栄養法⑦服薬管理⑧褥瘡⑨膀胱留置カテーテル			外部講師
6	療養上のリスクマネジメント～リスクの特徴、生活環境に潜む危険、災害時			外部講師
7・8	訪問リハビリテーションの実際			外部講師
9～14	在宅療養の継続を支援するための技術(演習)～訪問時のマナー、支援技術演習			専任教員
15	まとめ			専任教員

分野	専門分野	科目名	老年看護学方法論Ⅰ (高齢者看護の基本・実践Ⅰ)	
開講時期	2年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 老年看護学:医学書院
担当 講師名	伊東美穂	実務経験	○	
学習目標  1. 高齢看護の基本が理解できる 2. 高齢者特有のリスクとリスクマネジメントについて理解する 3. 高齢者に起こりやすい症状に対する看護を理解する				評価方法・配点
				出席状況・授業態度 提出レポート 筆記試験 100点
回	授 業 計 画			備 考
1	高齢者看護の基本 高齢者に対するフィジカルアセスメント			
2	高齢者によくみられる疾患 高齢者のリスクマネジメント			
3~7	高齢者のヘルスプロモーション 1. 転倒予防と歩行・移動を支える看護  2. 認知症予防とコミュニケーション ユマニチュード  3. 生活習慣病予防			
8~12	生活を支える看護 1. 食生活を支える看護:脱水  2. 排泄を支える看護:失禁  3. 清潔・衣生活を支える看護:皮膚掻痒症、スキンケア  4. 視覚・聴覚障害の看護:白内障、難聴			
13・14	治療をうける高齢者の看護 1. 薬物療法 2. 手術療法			
15	まとめ			

分野	専門分野	科目名	老年看護学方法論Ⅱ (高齢者看護の基本・実践Ⅱ)	
開講時期	2年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 老年看護学:医学書院 看護診断ハンドブック:医学書院
担 当 講師名	江里口 康子	実務経験	○	
	西口 育子		○	
学習目標			評価方法・配点	
1. 高齢者に起こりやすい症状に対する看護を理解する 2. 高齢者に起こりやすい健康障害に対する看護技術を習得する 3. 高齢者の死の捉え方、考え方を理解する			出席状況・授業態度 提出レポート 筆記試験 100点	
回	授 業 計 画			備 考
1・2	誤嚥性肺炎の高齢者の看護 看護過程の展開 1. 誤嚥性肺炎のメカニズムと基本的看護			
3～10	2. 事例の高齢者の看護の展開 1)アセスメント 2)関連図 3)看護診断の抽出 4)看護計画の立案 5)看護計画の実施 6)看護の評価と再計画			
11～14	終末期の看護 1. 身体的アセスメント 2. 家族へのケア 3. 看取りを終えたスタッフへのケア			
15	まとめ			

分野	専門分野	科目名	小児看護学概論	
開講時期	2年次(前期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論:医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論:医学書院
担当 講師名	小田 恭子	実務経験	○	
<b>学習目標</b> 1. 子ども親や小児看護の変遷を理解した上で小児看護の対象と小児看護の役割について理解する 2. 子どもにとっての最善の利益や権利について理解する 3. 子どもの成長・発達を理解し発達段階に応じた看護を理解する 4. 子どもをめぐる保健政策の動向と諸問題を理解する 5. 子どもとその家族を取り巻く環境の変化や社会問題とそれに応じた対応について理解する				評価方法・配点
				筆記試験:100点
回	授 業 計 画			備 考
1	1. 小児看護の対象 1)子どもの特徴           2)子どもと家族、社会 1. 小児看護の目標と役割 1)小児看護の目標   2)小児看護の役割			
2	1. 小児看護の変遷 1)児童観の変遷           2)小児医療の変遷           3)小児看護の変遷 2. 小児看護の課題			
3	1. 子どもと家族を取り巻く環境の現状と問題			
4	1. 世界の子どもたち 1)発展途上国の子どもたちの現状   2)世界の子どもたちが直面する問題			
5~6	1. 子どもの権利と看護 1)人権に関する法律   2)児童の権利に関する条約   3)小児看護と倫理的配慮 2. 子ども虐待とアドボカシー			
7~8	1. 子どもの成長・発達(グループワーク) 1)乳児           2)幼児           3)学童           4)思春期			
9	1. 子どもの成長・発達           1)乳児期			
10	1. 子どもの成長・発達           1)幼児期			
11	1. 子どもの成長・発達           1)学童期           2)思春期			
12	1. 遊び、学習の支援			
13	1. 子どものおこしやすい事故と事故防止			
14	1. 小児看護で用いられる理論 2. 家族の特徴とアセスメント			
15	1. 子どもをめぐる法律と施策 2. 学校保健			

分野	専門分野	科目名	小児看護学方法論Ⅰ (障害と治療)	
開講時期	2年次(前期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	伊達木 澄人 船越 康智 木下 史子 里 龍晴 白川 利彦 橋本 邦生 河田 宗一郎	実務経験	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 :医学書院  小児看護学[2] 小児臨床看護各論 :医学書院
学習目標 1. 小児期の主な疾患、症状、検査、治療を小児の成長・発達とともに理解する				成績評価の方法
				マークシート方式 100点
回	授業計画			テキスト
1	1. 染色体異常・先天異常、新生児 1) 常染色体異常・性染色体異常 2) 新生児の疾患 ①適応障害 3) 低出生体重児の疾患			
2	1. 代謝性疾患、免疫・アレルギー性・リウマチ性疾患 1) 糖尿病 2) 気管支喘息 3) 若年性特発性関節炎			
3	1. 感染症、呼吸器疾患 1) ウィルス感染症 2) 細菌感染症 3) 気管支炎、肺炎			
4	1. 循環器疾患、消化器疾患 1) 先天性心疾患 2) 川崎病 3) 肥厚性幽門狭窄症、腸重積症 4) 胆道閉鎖症			
5~6	1. 血液疾患、悪性新生物 1) 血友病、特発性血小板減少性紫斑病 2) 白血病 3) 脳腫瘍			
7	1. 腎・泌尿器疾患、神経疾患 1) 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 2) てんかん、熱性けいれん 3) 脳性麻痺			

分野	専門分野	科目名	小児看護学方法論Ⅱ	
開講時期	2年次(後期)	単 位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	橋口 あゆみ 山田 紗貴 上野 美穂 五島 真理子	実務経験	○ ○ ○ ○	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論:医学書院
学習目標				評価方法・配点
1. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する 2. 子どもの健康障害の経過や症状に応じた各発達段階の看護について理解する 3. 小児看護に必要な看護技術について理解する 4. 小児の看護過程の展開について理解する				総点:100点 専任教員 :筆記試験 50点 (認定看護師の内容含む) 小児科看護師:筆記試験 50点
回	授 業 計 画			備 考
1	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 1) 病気・障害に対する子どもの反応 2) 子どもの病気・障害に対する家族の反応			教員
2	1. 周手術期の子どもと家族の看護			看護師
3	1. 終末期の子どもと家族の看護			看護師
4	1. 低出生体重児の看護 1) ハイリスク新生児の特徴			認定看護師2H (回の変更あり)
5	1. 障害がある子どもと家族への特徴			教員
6	1. アセスメントに必要な技術			看護師
7	1. 検査・処置総論 1. 検査・処置各論 1) 与薬 2) 輸液管理 2) 採血			看護師
8	3) 骨髄穿刺・腰椎穿刺 4) 酸素療法・吸入療法			看護師
9	1. 救急処置が必要な子どもと家族への看護 1) 主な誤飲事故と処置 2) 子どもの熱傷の特徴と重症度および処置 3) 小児の蘇生法 4) 救急処置を受ける子どもと家族の不安の緩和			認定看護師2H (回の変更あり)
10~14	1. 子どもの健康問題と看護 1) 発達段階に応じた看護 2) 遊び、学習の支援 2. 小児の看護過程の展開			教員
15	1. 災害を受けた子どもと家族の看護			教員



分野	専門分野	科目名	母性看護学概論	
開講時期	2年次(前期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	馬場 直美	実務経験	○	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論:医学書院 国民衛生の動向:厚生統計協会
<b>学習目標</b> 1. 母性看護の基盤となる概念について理解する 2. 母性看護の動向と法律・施策について理解する 3. 女性のライフサイクル各期における健康問題と看護について理解する 4. ヒューマンセクシュアリティについて理解する				評価方法・配点
				課題レポート, 小テスト 授業への貢献度 筆記試験  上記から総合的に評価する
回	授業計画			備考
1~2	母性看護の歴史と変遷			講義
	母性看護の基盤となる概念			講義
3~4	リプロダクティブヘルス/ライツの健康課題			講義・GW
	ヒューマンセクシュアリティ			講義
5~6	母性看護における母子保健施策と法律			講義
	母子保健統計からみた動向			講義
7~8	女性のライフステージ各期における看護(1) 思春期の健康と看護			講義・GW
9~10	女性のライフステージ各期における看護(2) 成熟期の健康と看護			講義・GW
11~12	女性のライフステージ各期における看護(3) 更年期・老年期の健康と看護			講義・GW
13~14	女性のライフステージ各期における看護:まとめ			講義
	不妊治療と看護, 在日外国人の健康課題と看護			講義
15	母性看護における生命倫理			講義

分野	専門分野	科目名	母性看護学方法論Ⅱ (周産期・新生児の看護)	
開講時期	2年次(後期)	単位	1単位:30時間 周産期・新生児26時間 ハイリスクケア4時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	馬場 直美	実務経験	○ ○	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]母性看護学各論 :医学書院 カラー写真で学ぶシリーズ 妊産褥婦のケア :医歯薬出版 写真でわかる母性看護技術 :インターメディカ
学習目標			評価方法・配点	
1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的変化について理解する 2. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護について理解する 3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族に必要な母性看護技術を習得する 4. ハイリスクな状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護について理解する			出席状況・授業態度 レポート・小テスト 筆記試験:100点 周産期・新生児 80点 ハイリスクケア 20点	
回	授業計画			備考
1～6	1. 周産期看護 1) 妊娠期における看護 2) 分娩期における看護 3) 産褥期における看護			
7・8	2. 新生児期看護			
9・10	3. ハイリスク妊婦・産婦・褥婦の看護 ハイリスク新生児の看護			
11～14	4. 母性看護技術  1) 妊婦・褥婦・新生児のフィジカルアセスメントとケア レオポルドの触診法、腹囲・子宮底測定、胎児心拍数モニタリング装着、産褥子宮の観察と輪状マッサージ、産褥子宮の観察と輪状マッサージ  2) 新生児のフィジカルアセスメントとケア バイタルサイン測定、沐浴・更衣・おむつ交換、抱き方・寝かせ方・排気法			
15	まとめ			

分野	専門分野	科目名	精神看護学方法論Ⅱ	
開講時期	2年次(前期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 :医学書院
担当 講師名	洲崎 一宏	実務経験	○	
学習目標				評価方法・配点
1. 精神看護に必要な判断と、各症状に関する知識および看護の基本的 援助について理解する 2. コミュニケーションの過程の振り返りを通して、自己洞察を深める技術を学ぶ				筆記試験 100点
回	授業計画			備考
1～2	1. 精神を病む人の特徴と理解 1)精神疾患患者のとらえ方 2)精神障害の回復過程			
3～5	1. 精神を病む人への看護援助の基本 1)日常生活援助 2)活用する技法			
6～10	1. 各症状とその看護			
11～13	1. 精神科治療 1)検査とその看護 2)薬物療法・精神療法・社会療法とその看護			
14	1. プロセスレコードについて			
15	1. プロセスレコード演習			

分野	専門分野	科目名	災害看護と国際看護	
開講時期	2年次(後期)	単位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当講師名	真辺 悟	実務経験	○	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [3]災害看護学・国際看護学 :医学書院
学習目標				評価方法・配点
1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する 2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する 3. 災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を理解する 4. 災害時の応急処置の方法を理解できる 5. 発展途上国における健康・生活上の問題について理解する 6. 国際保健学の概念を基礎に、国際保健医療活動における国際看護の役割について理解する				筆記試験 100点
回	授業計画			備考
1	災害看護の歩みと近年の災害発生状況 災害の基礎知識 災害種類別疾病構造と災害サイクルから見る災害医療			
2~3	災害サイクルに応じた災害看護の役割 (超急性期、急性期、慢性期) 東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨の実際を基に構成し看護展開の紹介			
4	被災者のこころのケア			
5~6	超急性期の搬送、トリアージについて			
7	国際看護の概念と看護師の役割 感染症対策(COVID-19対応派遣の実際) まとめ			

## **3 年次履修科目**

**専門基礎分野**

**専門分野**

分野	専門基礎分野	科目名	関係法規	
開講時期	3年次(後期)	単 位	1単位:15時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4]看護関係法令 :医学書院
担 当 講師名	横尾 美智代 小田 恭子	実務経験	○	評価方法・配点
			○	
学習目標				筆記試験 外部講師:60点 専任教員:40点
1. 医療法規の基本的概念を理解し、社会生活と法のつながりについて理解する 2. 健康な生活を維持するため関連法規を学び、社会生活と法のつながりを理解する 3. 看護者の法的責務について理解する 4. 医療事故防止について理解する				
回	授 業 計 画			備 考
1	法規の概念 厚生行政のしくみ			
2	医事法規の理解 1)医療法 2)薬事法			
3	保健・予防衛生法規 環境衛生法規			
4	公害関係法規 福祉関係法規			
5	保健師助産師看護師法			
6	医療過誤 看護職の法的責任 事例学習			
7	事例学習 看護師などの人材確保の促進に関する法律			

分野	専門分野	科目名	看護管理と医療安全	
開講時期	3年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間 看護管理10時間 医療安全20時間	テキスト・参考書・使用教材等
				系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1]看護管理 看護の統合と実践[2]医療安全:医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4]臨床看護総論:医学書院
担 当 講師名	看護管理:木下日出美	実務経験	○	評価方法・配点
	医療安全:橋口あゆみ		○	
医療安全:川添 薫	○			
学習目標				評価方法・配点
1. 看護管理(マネジメント)に必要な基礎的知識を習得する 2. 「医療安全」は、組織的に取り組む安全管理の考え方を学び、 看護職に多い医療事故を防ぐための具体的方法について学ぶ				
				出席状況・授業への参加状況 課題レポート 筆記試験:総点100点 看護管理 40点 医療安全 60点
回	授 業 計 画			備 考
	<b>看護管理</b>  1 1.看護管理(マネジメント)とは  2 1.看護サービスの提供  3 1.キャリア形成  4 1. 看護サービス評価  5 1. 私はこんな病院で働きたい			
	<b>医療安全</b>  6～8 1. 医療安全の基本的な考え方 ・医療事故の現状 ・医療事故の考え方 ・ヒューマンエラーと対策 ・組織としての医療安全対策 ・医療事故に伴う看護職の法的責任  9～12 1. 診療の補助の事故防止 ・注射業務と事故防止 ・内服与薬業務と事故防止 1. 療養上の世話の事故防止  13 1. 医療安全とコミュニケーション  1. 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断  1. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン			
	14～15 1.ME機器と医療安全			

分野	専門分野	科目名	看護研究		
開講時期	3年次(前期・後期)	単位	1単位:30時間	テキスト・参考書・使用教材等	
				看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方:照林社 配布資料	
担当講師名	永峯 卓哉	実務経験	○		
	小田 恭子		○		
学習目標			評価方法・配点		
1. 研究の必要性を理解し、将来さらに学習し、未知の分野の研究や改善方法を考察する糸口とする 2. 看護研究の特性、研究の型や領域、研究倫理など研究の基本的知識を深め、研究の過程を理解する			総点:100点 外部講師 終講試験:50点 専任教員 出席状況、演習内容:50点		
回	授業計画			備考	
1	1. 研究とは 1)研究の原点 2)看護領域における研究			外部講師	
2	1. 看護研究における倫理 1)医療分野における倫理規則 2)看護研究と倫理規定 3)研究論文の構成要素				
3	1. 論文作成の基本ルールとマナー 2. プレゼンテーション				
4~5	1. 看護における文献検索・文献講読 2. 看護研究方法論 1)量的研究と質的研究 2)研究方法とその特徴、具体的な進め方				
6~7	1. 看護研究(ケーススタディ) 1)事例研究の具体的な進め方 2. 看護研究に関する総まとめ				
8~9	1. ケーススタディガイダンス				学内教員
10~11	1. ケーススタディの実際				
12~14	1. ケーススタディ発表会ガイダンス				
15	1. ケーススタディ発表会				



分野	専門分野	科目名	臨床判断能力	
開講時期	3年次(前期・後期)	単 位	1単位:30時間 救急看護4時間 臨床判断26時間	テキスト・参考書・使用教材等
担当 講師名	救急看護:與賀田 洋 救急看護:濱口 貴博 臨床判断:峰 雪絵	実務経験	○ ○ ○	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論 : 医学書院
学習目標			評価方法・配点	
1. 臨床を想定した多彩な場面においてモデル患者に対し安全・安楽に看護技術が実施できる 2. 身体侵襲を伴う看護技術を安全・安楽に実施できる 3. 救急看護の実際について理解する			演習 ワークシート 筆記試験(小テスト) 技術テスト 総点:100点	
回	授 業 計 画			備 考
1・2	救急看護におけるフィジカルアセスメント			
3	臨床判断とは 臨床判断のプロセス(気づき、解釈、反応、省察)			
4～6	導入、ワークの説明 事例紹介 事例患者への看護の適応 援助計画の立案			
7・8	臨床判断のトレーニング 訪室したらいつもと違う受け持ち患者の事例でシミュレーションを行う 何に気づいてどう判断して何をしたのかリフレクションする			
9	動画を用いて、何に気づいてどう判断したのかをリフレクションする			
10～12	2回目の演習(患者役は学生が行う) 発表準備			
13・14	各グループで発表 臨床判断演習を通して学んだことを発表する			
15	まとめ			

## 講師一覽表

資料 1 (1 年次)

資料 2 (2 年次)

資料 3 (3 年次)

教 育 内 容		授 業 科 目		単 位	総 時 間	時 間	講 師 名	所 属			
基礎分野	科学的思考の 基盤	論 理 学 I	文 章 表 現	1	15	15	末 岡 洋				
		論 理 学 II	論 理 的 思 考	1	15	15	篠 原 駿 一 郎				
	人間と生活・ 社会の理解	心 理 学			1	30	10	峯 晃 子	長崎純心大学		
							10	楠 本 優 子	長崎大学大学院		
							10	応 戸 絵 奈	大村共立病院		
英 語	社 会 学			1	30	30	平 野 裕 子	長崎大学大学院			
	教 育 学			1	15	15	榎 景 子	長崎大学			
専門基礎分野	人体の 構造と機 能	栄 養 と 代 謝	生 化 学		1	30	10	馬 場 友 巳			
			栄 養 学				20	馬 場 か お り	長崎みなとメディカルセンター		
		微 生 物 学		1	15	15	庄 子 幹 郎	長崎大学大学院			
		人体の構造と機能 病 理 学	解 剖 生 理 学		2	45	20	川 添 薫	長崎総合科学大学		
			病 態 生 理 学				25	松 本 逸 郎			
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾 病 論 I	呼 吸 器		1	30	14	高 橋 淳	春回会クリニック		
			循 環 器				16	深 江 学 芸	長崎大学病院		
			運 動 器				10	朝 永 正 剛	朝永整形外科医院		
		疾 病 論 II	脳 神 経 外 科			1	30	12		長崎大学病院	
										長崎大学病院	
										長崎大学病院	
										長崎大学病院	
										長崎大学病院	
										長崎大学病院	
		疾 病 論 III	消 化 器			1	30	18		長崎大学病院	
				内 分 泌 代 謝 眼 科 耳 鼻 科					4		長崎大学病院
									4		長崎大学病院
									2	大 野 あ か ね	本多眼科
									2	橋 本 清	ハンモト耳鼻咽喉科医院
		疾 病 論 IV	血 液 ・ 造 血 器 免 疫 腎 ・ 泌 尿 器 口 腔 皮 膚 科			1	30	8		長崎大学病院	
					8				長崎大学病院		
					8				長崎大学病院		
					10				長崎大学病院		
					10				長崎大学病院		
					2			久 松 徳 子	長崎大学病院		
				2	計 盛 幸 子			かずもり皮ふ科			
専門分野	基礎看護学	看 護 学 概 論		1	30	30	小 田 恭 子				
		技 術 論 I	臨 床 判 断 の 基 礎	1	30	30	峰 雪 絵				
		技 術 論 III	日 常 生 活 援 助 技 術	1	30	30	橋 口 あ ゆ み				
	地域・在宅 看 護 論	地 域 ・ 在 宅 看 護 総 論	看 護 の 対 象 で あ る 人 と く ら し を 理 解 す る	1	30	30	林 田 淳 子				
	成人看護学	成 人 看 護 学 概 論			1	30	30	伊 東 美 穂			
		成 人 看 護 学 方 法 論 I	呼 吸 器		1	30	10		国立病院機構長崎病院		
			循 環 器				10	木 村 恵 利 華	長崎大学病院		
			腎 ・ 泌 尿 器				10		長崎大学病院		
		成 人 看 護 学 方 法 論 II	運 動 器		1	30	10	大 田 直 樹	長崎大学病院		
			脳 神 経				10				
			血 液 ・ 造 血 器				10		長崎大学病院		
		成 人 看 護 学 方 法 論 III	消 化 器 内 分 泌 ・ 代 謝 乳 腺 緩 和 ケ ア			1	30	14		長崎大学病院	
								2	小 田 恭 子		
								2		長崎大学病院	
					2				長崎大学病院		
				10	増 田 弓 華 子			聖フランシスコ病院			
老 年 看 護 学	老 年 看 護 学 概 論			1	30	30	西 口 育 子				
母性看護学	母 性 看 護 学 方 法 論 I	障 害 と 治 療		1	15	7	宮 村 泰 豪	みやむら女性のクリニック			
		周 産 期 ・ 新 生 児				8		済生会長崎病院			
精神看護学	精 神 看 護 学 概 論			1	30	30					
	精 神 看 護 学 方 法 論 I	障 害 と 治 療		1	15	15	辻 田 高 宏	廣中病院			

教育内容		授業科目		単位	総時間	時間	講師名	所属
基礎分野	科学的思考の基礎	情報科学		1	30	30	柳生大輔	長崎大学
	人間と生活・社会の理解	保健体育	保健体育の基礎	1	30	16	小原達朗	
			レクリエーション			8	吉村正春	長崎県レクリエーション協会
		リラクゼーション				8	清水志保	
専門基礎分野	人体の構造と機能	臨床薬理学	薬理学	1	30	24	胡錦萍	
			薬物療法看護			6	峰雪絵	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学		1	15	5	有馬和彦	長崎大学大学院
						10	水上諭	長崎大学大学院
			社会福祉			1	30	30
	生命倫理		1	30	30	篠原駿一郎		
専門分野	基礎看護学	技術論Ⅱ	看護過程	1	30	30	林田淳子	
		技術論Ⅳ	臨床看護総論	1	30	2	田島純子	長崎大学病院
						14	伊東美穂	
				学習支援			14	橋口あゆみ
		技術論Ⅴ	診療の補助技術	1	30	30	峰雪絵	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護方法論Ⅰ	地域ケアマネジメントと多職種連携	1	15		荒木奈緒美	長崎市桜馬場地域包括支援センター
							永富幸美	長崎市片瀬・長崎地域包括支援センター
							宮崎郁子	訪問看護ナーシングパディ
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	家族看護と在宅看護過程	1	15	15	林田淳子	
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	対象のくらしに応じた支援の実際	1	30		林田淳子	
							清水仁司	陽の出訪問看護ステーション
							山田陽子	陽の出訪問看護ステーション
							松井由恵	長崎市医師会訪問看護事業所
	地域・在宅看護方法論Ⅳ	健康とくらしを支える技術の基本	1	30		林田淳子		
						松井由恵	長崎市医師会訪問看護事業所	
						宿輪海王	陽の出訪問看護ステーション	
	老年看護学	老年看護学方法論Ⅰ	高齢者看護の基本・実践Ⅰ	1	30	30	伊東美穂	
		老年看護学方法論Ⅱ	高齢者看護の基本・実践Ⅱ	1	30	4	江里口康子	
						26	西口育子	
	小児看護学	小児看護学概論		1	30	30	小田恭子	
小児看護学方法論Ⅰ		障害と治療	1	15	3	船越康智	長崎大学病院	
					2	河田宗一郎	長崎大学病院	
					2	木下史子	長崎大学病院	
					2	橋本邦生	長崎大学病院	
					2	白川利彦	長崎大学病院	
					2	里龍晴	長崎大学病院	
				2	伊達木澄人	長崎大学病院		
小児看護学方法論Ⅱ	救急処置 低出生体重児	1	30	16	橋口あゆみ			
				10	山田紗貴	長崎大学病院		
				2	上野美穂	長崎大学病院		
				2	五島真理子	長崎大学病院		
母性看護学	母性看護学概論		1	30	30	馬場直美		
	母性看護学方法論Ⅱ	周産期・新生児	1	30	26	馬場直美		
ハイリスクケア		4			前田愛	長崎みなとメディカルセンター		
精神看護学	精神看護学方法論Ⅱ		1	30	30	洲崎一宏	田川療養所	
看護の統合と実践	災害看護と国際看護		1	15	15	真辺悟	日本赤十字社長崎原爆病院	

教育内容		授業科目		単位	総時間	時間	講師名	所属
専門分野 基礎	健康支援と 社会保障制度	関係法規		1	15	8	横尾美智代	西九州大学
						7	小田恭子	
専門分野	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	看護管理	1	30	10	木下日出美	
			医療安全			16	橋口あゆみ	
		看護研究		1	30	4	川添薫	長崎総合科学大学
						14	永峯卓哉	長崎県立大学シーボルト校
		臨床判断能力	救急看護	1	30	16	小田恭子	
						4	與賀田洋	愛野記念病院
			臨床判断			濱口貴博	長崎みなとメディカルセンター	
						26	峰雪絵	

令和5年度 長崎市医師会看護専門学校 第2看護学科

シラバス

刊行	2023年 3月
編集	第2看護学科 教員
発行	長崎市医師会看護専門学校
	〒850-8511 長崎市栄町2番22号
	TEL 095-818-5801
	FAX 095-818-5628